

ラオス人民民主共和国
ワットプー遺跡保存修復計画
予備調査報告書

平成 13 年 5 月

国際協力事業団

ラオス人民民主共和国ワットプー遺跡保存修復計画

予備調査報告書

目次

第1部 総論編

1 要請の背景と予備調査の目的	1
2 予備調査の概要	2
3 調査結果概要	4

現状分析編

1 ワットプー遺跡の現状	
1-1 規模や歴史的価値	7
1-2 遺跡保存計画の概要	8
1-3 遺跡周辺の自然条件	9
2 遺跡の保全体制	
2-1 ラオス側実施機関の概要（組織、人員、予算）	10
2-2 遺跡保存計画の進捗状況	12
2-3 ユネスコや日本を含む諸外国の支援の現状	13
2-4 保有機材の現状と管理体制	14
3 協力の前提条件	
3-1 遺跡に対する不利な条件の抽出	15
3-2 ラオス側の実施体制	17
3-3 他国や国際機関との連携の可能性	17
3-4 協力に必要な情報の有無	18
4 協力の可能性及び留意点	
4-1 協力の可能性	19
4-2 協力の意義や効果についての考察	22
4-3 基本設計調査の範囲、主な内容、専門分野	24
4-4 協力にあたっての留意点	25

参考資料

第1部 総論編

1 要請の背景と予備調査の目的

1-1 背景・経緯

ワットプー遺跡はヴィエンチャンからメコン河の下流約500キロ、パクセの南方に位置するチャンパサク県にある。遺跡サイトの総面積は約500平方キロで、5～12世紀にクメール人が建設した二つの都市の遺跡が残っている。この都市は当時東南アジアの中心で、チェンラ王朝の首都であったと考えられている。住居、道路、水路、寺院等の都市インフラは山岳信仰の象徴となっているカオ山を後方に抱き、景観に調和するように建設されており、歴史的価値に加えて都市設計面でも優れている。ユネスコはこの遺跡の価値は(1)ワットプーは景観に調和するように設計されており、この建築方式の建造物としては最古、(2)当時の都市計画、空間計画、建築技術、施工技術に大きな進歩をもたらした、(3)クメール文化の伝承にあると評価しており、1974年から遺跡の保存活動を支援している。なお、「ワットプー」は「山寺」という意味からも、山の斜面という立地が欠かせない条件となっている。

遺跡の中でも最も価値が高いのは寺院本殿と南北宮殿であるが、支柱が傾いていたり、崩壊していたりしている。その理由は裏山(カオ山)からの雨水が寺院に直接流れ込み、地表の土砂を流すことで、石積みの構造物の土台を不安定にしているものである。また、年1回開催されるフェスティバルには1万人以上の観客が訪れるが、訪問者への対策も不十分である。このため、訪問者が自由に遺跡に上ったりして遺跡の崩壊の原因をつくり出していることに加えて、転落や落下物によるけがの危険性も高い。

このため、1996年にはユネスコは日本、イタリア、フランス、オーストラリア、英国の専門家の協力を得てワットプー及び周辺遺跡の保存協力の第2フェーズを開始した。この内容は、チャンパサク県の開発において遺跡を保存するためのゾーニング計画や運営管理計画の作成で、1999年に報告書にとりまとめられた。ゾーニング計画ではサイトを(1)文化遺産保護区域(390平方キロ)、(2)環境保全区域(92平方キロ)、(3)考古学研究区域(21平方キロ)、(4)遺跡運営区域(3平方キロ)に分けて保存や環境保全と調和の取れた管理や開発を行うことを提言している。さらに、水文、文化人類学、考古学、環境に関しても右協力の中で調査が行われた。ラオス政府は以上の内容をチャンパサク文化遺産サイト修復・運営管理計画(The Champasak Heritage and Cultural Landscape Management Plan)として1998年9月に承認し、ユネスコ世界遺産への登録を目指している。

この背景を受けてラオス政府は遺跡の保全についての協力を我が国に要請してきた。しかしながら、機材については技術面や維持管理面での不安があり、土木的な対応を考えるためには情報が少ない。このため、サイトの現状を把握し、保存・修復計画、体制、技術を確認した上で、先方と意見調整を行い、協力内容を取りまとめる必要があることから、予備調査を行うことにしたものである。

1-2 プロジェクトの概要

本プロジェクトにて想定される成果や目標をまとめると以下のとおりとなる。

- (1) 上位目標：ワットプー遺跡の保全、保護体制が改善される。
- (2) プロジェクト外目標：ワットプー遺跡の保護対策や修復が実行される。
- (3) 期待される成果：ワットプー寺院への雨水対策、盗難対策が実施され、修復機材が整備される。
- (4) 活動・投入計画
 - ア. 我が国への要請内容：ワットプー遺跡周辺の施設整備と建設機材、測量・記録用機材、事務機器の調達
 - イ. 相手国側の事業計画：遺跡の修復、保存、遺跡サイトの整備、運営
- (5) 対象地域（サイト）：チャンパサク県
- (6) 直接・間接受益者：直接受益者－チャンパサク県住民（約3万人）と遺跡関係者と訪問者、間接受益者－ラオス国民

2 予備調査の概要

2-1 調査方針及び留意事項

- (1) 我が国が想定している協力内容は（ア）排水対策、（イ）遺跡へのアクセス、アプローチの改善であるが、（ウ）遺跡保存や研究に必要な機材の供与の要請もある。サイト調査及び先方との協議においては、それぞれのコンポーネントの可能性を念頭において、調査概要に記した内容の調査を行う。
- (2) チャンパサク文化遺産サイト修復・運営管理計画（The Champasak Heritage and Cultural Landscape Management Plan）のラオス側や他のドナーの取り組み状況を確認する。
- (3) 協議を通じて我が国が想定している協力の可能性を探ると共に、協力の妥当性、意義、効果、留意点を把握する。

- (4) 想定範囲外の協力要請がある場合にはその背景、理由、妥当性、実施の可能性を検討する。
- (5) 基本設計調査のスコープを検討すると共に、必要な要員についても検討する。

2-2 調査概要

上記の調査方針に基づいて設定した予備調査の項目は次のとおりである。

- (1) プロジェクトの背景、目的、内容を確認する。
- (2) 排水対策に関しては以下の調査を行う。
 - ・サイトの水文データの有無の確認
 - ・雨水の遺跡への影響の把握
 - ・排水対策方法、規模の検討
- (3) 遺跡へのアクセス改善については以下の調査を行う。
 - ・動線の確認
 - ・交通量（人、車、車種）の把握とデータの有無の確認
 - ・アクセス・アプローチ対策方法、規模の検討
- (4) 遺跡保存や研究に必要な機材の検討に関しては以下の調査を行う。
 - ・既存活動の内容、実施体制、技術レベル、予算の確認
 - ・国際機関、他ドナー、大学の協力状況の把握
 - ・機材の利用計画、管理体制の確認
 - ・維持管理の可能性の検討
- (5) 上記に含まれていないコンポーネントで先方から要請があった場合には上記の項目に準じた背景調査を行う。
- (6) 受入官庁、実施組織、NIMCC の役割等、遺産保存にかかるラオス側の実施体制と役割分担を確認する。
- (7) 想定している土木工事を行うことができるパクセ及びヴィエンチャンの現地業者の数を確認する。
- (8) 本格調査実施において想定される留意点を検討する。
- (9) 無償資金協力としての妥当性や範囲、要員計画を検討する。
- (10) その他案件実施にあたって留意すべき点があれば把握する。

3 調査結果概要

3-1 受入機関

本件協力の受入機関は、ワットプー遺跡省庁間調整委員会（NIMCC）である。同委員会は、情報文化省、財務省、観光局、チャンパサック県等より構成され、ワットプー遺跡の運営管理計画に関する決定権を有する。議長は情報文化大臣である。定例会の他、情報文化省によって個別の計画が立案される毎に、NIMCC が召集され、同計画に対する中央政府各機関及び地方政府の意見が調整される。各機関の合意を得た後、NIMCC は右計画の実施につき了承を与える。右計画は、情報文化省博物館・考古学局を中心とした関係機関によって実施される。同局職員の殆どが海外の大学及び研究機関に留学した経験を持っており、現在も ASEAN、COCI 及び ICROM 等の留学制度を通じて年間 15 名程度の研修員を送り出している。同局は、ルアンプラバンの運営管理に関してワットプーと同様の権限を有しており、1995 年同遺跡を世界遺産に登録した実績がある。

3-2 ワットプー遺跡の現状・問題点

主な建造物は、南北宮殿、ナンディン宮殿、本殿及び本殿に通じる石段等であるが、何れの建造物も修復の必要がある。特に南北宮殿の参道に面した入口部は、いつ崩壊してもおかしくない状態であった。1998 年にユネスコによってマネージメント・プランが作成され、一部同プランに沿って修復が試みられているが、雨水の影響を直接受けている北宮殿等は砂岩及びラテライトの瓦解が著しく、緊急に何等かの対応が必要であろう。視察時にも 50 名程度の観光客が居り、宮殿に上って記念写真を撮っていたが、観光客の安全確保のためにも早急な措置が必要であると感じた。

視察時は乾期であったため、雨期の状況を視察することは困難であるが、直接雨水の影響を受けていると思われる北側石段及び北宮殿は、明らかに瓦解の程度が南側の状況と比して進行しており、雨水対策は遺産保護にとって緊急に実施すべき事業であると思われる。

ワットプー遺跡周辺から発掘された文化財がワットプー管理事務所（一部分がユネスコ関係者や研究者等に貸与されている）に多数保管されているが、同事務所は保管設備や防犯設備が無く、保管庫として不十分である。また、地域住民等に対して同文化財を展示する設備がないため、貴重な文化財の存在が知られていない状況にあり、右を改善することによって、地域住民が文化遺産を自らの手で守ろうという意識を更に高める効果があると考えられる。

遺跡の周辺には、一部、有刺鉄線による柵が作られているが、十分ではなく人や動物が自由に出入り出来る状況にある。動物による被害の痕跡や盗掘の可能性にも鑑み、遺跡の景観を損なわない形で塀を設置できれば、遺跡保護にとって有効な措置であると考えられる。

3-3 本件協力の対象とすべき遺跡

緊急性、必要性及び実効性の観点からワットプー寺院に限定すべきであるとする。候補として考えていた古代都市及びメコン河を挟んで対岸に位置するトモ寺院については、未だ調査途中の段階であり、調査結果を待たなければ具体的な事業を行うことは困難であると判断された。

3-4 検討すべき事実

(1) 排水対策

クメール時代からの排水システムに関し、イタリアのレイツィ財団が10年前から調査を行っている。完全に古代の排水システムを復旧することは、時間及び予算の制約上困難であると考えられるが、寺院後方の山に雨水防御壁等を設置し、雨水が直接遺跡に当たらないようにすること、及び遺跡の南北に流れる小川までの排水システムの一部なりとも再生することにより、遺跡に対する雨水の影響はかなり軽減されることが考えられる。排水システム周囲の調査データ、雨期の水文データ及びアクセスの確認につき更に詳細を検討する必要がある。

(2) 遺跡修復・保存のための機材供与

小規模ながらマネージメント・プランに沿った修復及び修復作業が行われており、右修復作業は、例えばアンコールワット遺跡に対する文化遺産無償で供与したような小型クレーン等機材を投入することにより促進されることが考えられる。予算、人員及び工期を含む修復計画を先方より提出せしめ、右のフィーズィビリティーを確認した上で、最適且つ使い勝手の良い機材を選定する必要があるが、社会主義体制の国家ということもあり人材の転移が容易であること、人件費が格段に安いこと、チャンパサック州政府に建機を使った工事の経験があること、また、フランス極東学院のピエール・ピシヤール専門家の助言による修復プランが存在し、情報文化省としても必要な機材が調達できれば修復作業を始める用意があること等を考えると本件は検討可能な事業であろう。

(3) 保管庫の設置

現在、ワットプー管理事務所には6、7世紀の石像や彫刻等貴重な文化財が置かれており、右文化財を適切な場所及び方法で保管すべきであるとする。若干の展示コーナーも設けることにより、地域住民の啓蒙にも繋がり、また、観光開発の観点からも有効な事業であるとする。

塀の整備

塀を整備することにより、動物の侵入を防ぐことが可能となり遺跡の保護に資すると判断される。また、塀の整備と同時に保護地域を拡張する計画があり、遺跡保存にとって相応しい広

さを確保出来る。

3-5 その他の留意事項

(1) 各ドナー間の調整

今回意見交換を行った限りでは、現在もっとも活発に調査を行っているのは、イタリア・レリツィ財団であり、同財団とは適宜協議を行う必要がある。他方、同財団の活動内容は、調査・研究が主体であり、調査結果を具体的な事業に繋げる用意は今のところないとのことであった。その他の国や機関も調査は行うものの修復事業等を具体的にを行う計画は有していない由であった。仮に他ドナーより協力が得られる場合にも、一義的にはラオス政府がドナー間の調整を行うべきものであり、他のドナー及び機関との意見交換は今後とも行う必要性はあるものの、事業実施の可否及び事業分野については、マネージメント・プランの範囲内で最終的にはラオス政府が判断すべきであろう。

(2) ソフトコンポーネントないし技術協力の可能性

今後の自立的な遺産の保全を促進するためにも人材育成は重要である。現在、情報文化省も、人員の積極的な海外派遣に努めており、徐々にではあるが人材は育成されつつあるので、更に同分野に対する支援を推進することで、援助効果も拡大すると思われる。本件協力のソフトコンポーネントを活用すると共に、技術協力により専門家派遣若しくは研修員受入れの可能性を検討すべきであろう。

第2部 現状分析編

1 ワットプー遺跡の現状

1-1 規模や歴史的価値

1-1-1 ワットプー遺跡の規模

ワットプー遺跡は、ラオス人民民主共和国の首都ヴィエンチャンから約500km南下したチャンパサック県（人口約54万人：1998年）のメコン河流域に存在するチャンパサック遺跡を代表する遺跡である。チャンパサック遺跡は紀元後7（5世紀という説も存在する。）～12世紀のプレアンコール期からアンコール期にかけてのクメール様式の建造物などで構成され、ワットプー寺院サイトを中心に、カオ山、古代道路を含むワットプー寺院南ホーンナムシダ地区、カオ山の東部周辺の独立した記念碑サイト、古代都市、チャンパサック平原のほかの遺跡サイト、トモ寺院などが存在する。

チャンパサック遺跡を代表するワットプー遺跡はヒンズー教寺院を中心とした建造物群であり、メコン河西岸のカオ山（標高1416m）麓の標高約180mに位置し、面積は約72haである。6つの高台の中に、本殿、南北宮殿、聖牛（ナンデイン）堂、6つの祠堂、階段状テラス、参道、大小5つのバライ（貯水池）などによって構成されている。

[参考資料 No.1～3／写真参考資料 No.1～2]

1-1-2 ワットプー遺跡の歴史的価値

ワットプー寺院を中心としたチャンパサック地域は、クメール民族（先住民とインド系移住者の混血種族といわれる。言語はモン-クメール語系に属し、南インドの文字に由来するといわれるクメール文字で表記する。）の発祥の地とされ、紀元後9～12世紀に栄えたアンコール期にも巡礼地として重要視されてきた。アンコール期が過ぎた後も、仏教寺院として変化し、現在も信仰の対象とされ続けている。

また、遺跡を守るように、これらの遺跡の中には、緻密な計算の下に作製された排水施設が整備されていたとみられる。水路や貯水池は、洪水時の水を再利用できるように設計され、灌漑農耕は余剰農産物を生産し、僧侶や管理者などの非生産民を生み出し、社会的・経済的・環境的にも大きな変化を与えた。

1-1-3 ワットプー遺跡の宗教的価値

ワットプー寺院は、紀元後7世紀（5世紀という説も存在する。）に東南アジア地区では最も古くに建てられたヒンズー教寺院の1つである。また、自然をうまく利用した景観や建築物な

どに彼らの信仰の証が記され、その後の時代にも強い影響を与えた。この地域に存在した山や水を奉った原始宗教からヒンズー教へと移行したことを示す重要な証拠である。

1-1-4 ワットプー遺跡の美術的価値

ワットプー寺院の建造物は、自然の景観を積極的に取り込んだクメールの山寺建築様式もさることながら、建造物に付属された繊細な彫刻の表現能力はクメール人の芸術や創造性の高さを示している。

1-2 遺跡の保存計画の概要

1-2-1 ラオス政府

ラオス政府によるワットプー遺跡を含むチャンパサック保護地区の法的整備は、1974年から1985年までの法制度準備調査からはじまった。この調査を基に、1987年に世界遺産協定を批准し、世界遺産となる文化遺産や自然遺産の保護保全が政府の義務であることを明確に理解し、1988年にサイト保護の地方条例（38/88）発布、1997年6月に文化・歴史・自然遺産保護に関する大統領令（No.3/PR）発布し、法的整備を行った。

また、実質的な遺跡保存計画は1989年にワットプー遺跡サイトへの現地職員設置からはじまった。そのうえ、1995年から日本のユネスコ信託基金を利用し、ワットプー遺跡を含むチャンパサック保護地区内の運営管理計画を作製するための環境整備を行ない、それに添った形で1998年9月28日にチャンパサック遺跡運営管理計画が作製・承認され、現在実質的な遺跡保存計画が進められている。

1-2-2 サイト保護の地方条例（38/88）

1988年10月11日チャンパサック県庁パクセにて発布されたこの条例の対象地域は、ワットプー西地区からメコン河までの寺院及び古代都市や遺構などを含む地域に指定している。特にワットプー、ホーンナムシダ、ホーンタオタオの3地区は重点地域として、特に保護されている。

主な条例は、無許可での調査の禁止（条例2/1、2、4）、遺構の上での建築物建設の禁止（条例2/3）、カオ山での無許可による伐採禁止（条例3）、建築物に関する厳格な条例（条例5/5）、遺構を壊さない灌漑計画要請の特別許可（条例2/3）、盗難（条例5/2）、収蔵物の著作権（条例5/6）などによって構成されている。

[参考資料 No.4]

1-2-3 文化・歴史・自然遺産保護に関する大統領令

1997年6月20日首都ヴィエンチャンにて発布されたこの政令は、ラオス国内の動産不動産を含めた文化・歴史・自然遺産を対象とした保護、運営管理、利用（啓蒙活動や愛国心向上など）などの方針について決められている。

主要な政令は、測量（条例11）、目録作製（条例12）、考古学サイトや碑文などの修復作業の管理（条例13-14）、発掘調査の規則作製（条例18-27）、この政令の施行の責任は、情報省文化省や担当の地方の行政的権力が持っている。（条例9）、政令を実施するにあたって、この地区の情報や文化機関の一部としての地方博物館事務所を設置するなどによって構成されている。

[参考資料 No.5]

1-2-4 チャンパサック遺跡運営管理計画

1998年9月28日ラオス人民共和国首相官房で承認されたチャンパサック遺跡運営管理計画は、ラオス政府、ユネスコ、日本政府、イタリア政府の協力の下、ユネスコ世界遺産登録をめざし、進められている。

計画の目的は文化的景観保護、埋蔵文化財保護、文化景観の保護、伝統的な建築物保護、自然環境の保護、開発管理、伝統的土地利用登録などの遺跡保護と地元社会経済の活性化にある。計画実行者の範囲はチャンパサック地域住民からラオス政策中枢の人々まで含まれている。計画期間は30年間で、その長期期間を5年毎に割る短期と中期に分けられている。

1-3 遺跡周辺の自然条件

1-3-1 地質学的条件

チャンパサック地域は地質学的に4つの地区に分けられる。1つ目の地区は北西部に位置するカオ山は標高1416mを中心とした、新生代中期に砂岩や泥岩により形成された地区。2つ目の地区は南と南西地区、新生代中期の大きな気象変化や断層などによる準平原化された地区。3つ目の地区はメコン河東岸地区、更新世の火山帯の活動による溶岩と火砕性岩とで構成されたラテライト層（熱帯地方で岩石の風化でできた鉄・アルミ分の多い土壌）に覆われている地区。4つ目の地区は、メコン河やその支流による運ばれた堆積度による沖積平原地区である。

1-3-2 周辺の土地利用

山岳部及び裾野の大部分は森林に覆われている。平坦地の大部分は水田と激しい浸食を守るための竹林に覆われている。メコン河東岸の大部分は、森林開拓地として利用されている。

2 遺跡の保存体制

2-1 ラオス側実施機関の概要（組織、人員、予算）

2-1-1 ワットプー遺跡省庁間調整委員会（NIMCC）

ワットプー遺跡省庁間調整委員会（NIMCC：National Inter-Ministerial Coordinating Committee）は、情報文化省、チャンパサック県、チャンパサック県情報文化局、チャンパサック市、サイト運営管理事務所、科学・技術・環境国立機関、財務省、観光庁、通信・運輸・郵政・建設省、農林省、教育省などから構成され人員は15名（1998年9月28日）、ワットプー遺跡を含むチャンパサック地域の遺跡に関する運営管理計画の方針を決定する機関である。その議長は、情報文化大臣である。定例会の他、計画が立案される毎に招集され、中央政府各機関及び地方政府の意見が調整される。主な活動は、チャンパサック保護区域の決定、チャンパサック保護区域の構造的発展、チャンパサック保護区域のサイト管理事務所の監督、チャンパサック保護区域内での計画認可、計画を進めていく上での予算認可などがある。

予算については、ワットプー遺跡省庁間調整委員会（NIMCC）独自の予算は存在しない。

[参考資料 No.6]

所在地：Ministry of Information and Culture, Vientiane, Lao PDR, Tel：+856-21-212-423 / 212-859
Fax：+856-21-212-408 / 212-401

2-1-2 情報文化省博物館考古学局

情報文化省博物館考古学局は、情報文化省を構成する8つの局（博物館考古学局、美術局、大衆文化局、マスメディア局、企画財務局、図書館局、監査局、動産局）の1つである。情報文化省博物館考古学局は、ラオス国内の博物館業務、遺跡保護業務及び考古学的調査業務に関する権限を唯一授与されている機関である。

情報文化省博物館考古学局は、局長1名、副局長2名、秘書2名、博物館運営管理課4名、古美術品運営管理課5名、歴史的記念碑運営管理課5名、法律課1名、考古学課2名、国立博物館17名の合計37名から構成される。同局長は、トンサ・サヤヴァンナムディ氏。

ワットプー遺跡に関する彼らの役割は、運営管理計画の立案、同計画に必要な予算の要求、計画の実施における学術的な支援（専門家の派遣・発掘調査：独自に行うのではなく外国の調査隊と共同で行う形態がほとんどである。）などを行っている。文化遺産無償が実施される場合、文化遺産無償プロジェクトチームの編制を計画しており、このプロジェクトチームが中心となって現場での文化遺産無償計画を遂行する予定である。プロジェクトチームは、情報文化省博物館考古学局を中心に他の省庁、チャンパサック県情報文化局、ワットプーサイト運営管理事務所などから約15名ほどで構成される予定である。

同局専門家は、海外の大学や研究機関等で研究した経験を持つ職員も多く、彼らの専門性は

けて低くない。現在も、ASEAN（ASEAN workshop on standardization for archeological conservation and restoration procedures / 1999.June.15-25）や ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）などの研究会や研修に、積極的に研修員を送り出し、日々その専門性に磨きをかけている。1995年に世界遺産登録されたルアンプラバンの運営管理に関してもワットプーと同様の権限を有している。チャンパサック保護区域内での主な活動は、チャンパサック保護区域の遺跡保護、チャンパサック保護区域内での計画申請、チャンパサック保護区域内での予算申請、NIMCCでの決定案の遂行などがある。

情報文化省博物館考古学局のワットプー遺跡を含むチャンパサック遺跡に対する今年度（2000年10月～2001年9月）の予算は、50,000,000kp（約6,100ドル）。人件費などは含まれず、プロジェクト運営経費として委員会（NIMCC）召集や学術研究調査などに使用される予定である。

[参考資料 No.7]

所在地：Ministry of Information and Culture Department of Museum and Archeology, Vientiane, Lao PDR, Tel : +856-21-212-423 Fax : +856-21-212-408

ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）：ローマに本部がある国際政府機関で、97カ国（2000年11月）が加盟している。加盟国からの分担金を基に、文化財保存の専門家を育成し、資料や情報を収集して提供するとともに、文化財の保存を広く啓発することを目的としている。

2-1-3 チャンパサック県情報文化局

チャンパサック県の情報文化を担当する。局長1名、副局長2名、ワットプーサイト運営管理事務所・県立博物館・美術担当といった文化課62名、テレビ担当・ラジオ担当・雑誌担当といった情報課79名、人事課2名、事務16名の合計162名から構成される。同局長は、シパラウス・サンサヴァス氏である。

ワットプー遺跡を含むチャンパサック保護地区内での主な活動は、保護地区内での小規模な開発認可、地域住民を対象とした啓蒙活動案や教育計画の認可、ワットプーサイト運営管理事務所支援（人件費＋日常業務運営経費調達）などがある。

今年度（2000年10月～2001年9月）の予算は、総額1,346,280,000kp（約164,180ドル）。ワットプー遺跡を含むチャンパサック保護地区内に対する予算は、ワットプーサイト運営管理事務所への人件費20,270,400kp（約2,472ドル）と日常業務運営経費18,000,000kp（約2,195ドル）である。

[参考資料 No.8]

所在地：Department of Information and Culture Champasak Province, Champasak Province, Lao PDR, Tel : +856-31-212-530 Fax : +856-31-212-069

2-1-4 ワットプーサイト運営管理事務所

ワットプー遺跡を含むチャンパサック保護地区内での日常業務を担当するとともに、チャンパサック市の文化面でも大きな役割を行っている。事務所長1名、所長代理2名、技術担当2名、事務担当4名、警備担当6名の合計15名から構成される。同事務所長は、チャンパサック市副市長兼任のシサヴァイ・アクハヴォン氏である。

主な活動はワットプー遺跡を含むチャンパサック保護地区内の警備、植生の清掃、祭りの前後を中心としたワットプー及びホーンナムシダの清掃、チケット販売、フェンスや管理下施設の修理、標識の設置、遺物の保護、海外からの学術調査補助（作業員などの人材の確保）といった日常業務を行う。

予算は、チャンパサック県から出る人件費 20,270,400kp（約 2,472 ドル）と日常業務運営経費 18,000,000kp（約 2,195 ドル）である。2000 年度チケット収入は、外国人 8,634 人×5,000kp とラオス国民 14,251 人×500kp の合計 50,295,500kp（約 6,134 ドル）とあるものの、チャンパサック県のほかの事業に使用されている。

この他に、1999 年海外在住のラオス人からの寄付金（約 10,000 ドル）といった臨時的収入が行なわれた。これらの寄付金は、道路整備、水タンクの設置、上段テラスの電源確保といったインフラ整備すべてに使用された。

[参考資料 No.9]

所在地：Champasak Province, Lao PDR, Tel/Fax：+856-31-213-277

2-2 遺跡保存計画の進捗状況

2-2-1 チャンパサック遺跡運営管理計画

学術的な面での遺跡運営管理計画。主に、1998 年 9 月 28 日ラオス人民共和国首相官房で承認されたチャンパサック遺跡運営管理計画に沿って、NIMCC や情報文化省博物館考古学局を中心として、遂行されている。

最初の 5 年計画（1999～2004）の課題には、保護地区での常備勤務、公開された遺跡サイトの直接運営、計画を進めていく上での内部（ラオス国内）外部（国際的機関など）を含めた調整、啓蒙などを中心に行われている。

現在、遺跡サイトの運営管理や保護していく上で 4 つのゾーン、すなわちゾーン 1：文化遺産保護区域（39,000 ha）、ゾーン 2：環境保護区域（9,200 ha）、ゾーン 3：考古学研究区域（2100 ha）、ゾーン 4：遺跡運営区域（285 ha）に分けられている。

このゾーンニングを基に、ゾーン 3 の考古学研究区域でのサイト現況やサイト来訪者の記録、遺跡への興味心増大や警戒を含めての看板設置が徐々に行なわれている。

ゾーン 4 の遺跡運営区域でのワットプー遺跡のテラス・南北宮殿・本殿の箇所安定化処理、

建造物の平面図・立面図の作製の作成、考古学調査に基づいた排水路の修復や植生の伐採、ワットプー寺院宮殿内の細長い部屋の建造物の支柱取り付け、宮殿入口部のペディメント（ドアや窓の上に付けた三角形の部分）の修復、ワットプーの基本聖域である6番目のテラスの安定化などが計画されているが、具体的な実施計画は立てられていない。

[参考資料 No.10]

2-2-2 ワットプーサイト運営管理事務所の活動

ワットプーサイト運営管理事務所の活動は、事務的活動が中心である。

一年中毎日行なわれているチャンパサック保護地区内の警備、チケット販売や乾季・7月・8月を抜いた7ヶ月間の清掃がワットプーサイト運営管理事務所の主な活動である。これらのほかには、フェンスや管理下施設の修理2ヶ月、標識の設置1ヶ月、遺物の保護1ヶ月、海外からの学術調査補助2ヶ月などといった臨時作業が含まれる。

しかし、現在人員が少なく、ワットプー遺跡やホーンナムシダの1部の運営管理しか行なわれていない。

[参考資料 No.11]

2-3 ユネスコや日本を含む諸外国の支援の現状

2-3-1 ユネスコ

1987年から1990年にかけて、ユネスコとUNDPの“ワットプー保護”計画が行われた。その結果、1988年にサイト保護の地方条例への変化や1989年にワットプーのための職員設置へと影響を与えた。1989～91年UNDPと共同でサイト保護や修復計画に221,000ドル相当の協力を行ったが成果がそれほど現れなかった。

その後、1996～1998年に666,000ドルかけてユネスコの日本信託基金を利用し、ユネスコとラオス政府がチャンパサック地域の管理運営面での新しい試みを行った。新しい試みは、4つの基礎から構成されている。①観光資源のデータベース、②地元職員の技能向上、③経済発展を目標とした遺跡の管理運営、④信仰心が引き続き保てるようなできるだけ干渉しない修復方法、の4つである。また、ラオス政府はこれらの計画が成功するように、自国民と手段を積極的に便宜することとされている。

これらを基に、サイトの管理運営を行うラオス人職員の国際機関を利用した能力向上計画、既に知られている考古学的サイトのGIS（地図情報）のデータベース作成、1997年から1998年早稲田大学（西村正雄氏）とラオス文化芸術省博物館考古学局（Oudomsy Keosaksith氏）によるチャンパサック地域の集水地測量調査、1999年Francis Engelmann氏とJerome Munzinger氏による植生調査などが行なわれてきた。このサイト運営管理方針は、現在もラオス側の大き

な指針として大きな役割を補っている。

また、1999年にはユネスコの世界遺産基金を利用し、世界遺産登録に向けて事前準備を行っている。

[参考資料 No.12]

2-3-2 フランス

1991～1999（1998年を除く）年に458,000ドルかけて、フランス国立極東学院とギメ博物館（Marielle Santonini氏）とラオス情報文化省博物館考古学局（Viengkeo Souksavat氏）による古代都市の現地調査と発掘調査を行ってきた。フランスは、チャンパサック遺跡に最も古くから関係しているが、現在活動を休止している。

フランス国立極東学院（EFEO）1898年サイゴンで発足したインドシナ考古学協会を母体とし、1901年フランス国立極東学院として再組織、翌年本部をハノイに移した。また、同学院は考古学的調査、写本類の収集、歴史的遺跡の保存などインドシナ地域の文化的研究を行っている。1901年以来同院紀要（BEFEO）や論文、資料集、翻訳物の刊行など、今世紀のインドシナ地域における文化研究の最先端を切り開いた。

2-3-3 イタリア

1991～2000（1996～1998年を除く）年に231,000ドルかけて、ワットプーやナンシンシダ及び古代都市の地区への現地調査（大気調査や地質学や地球物理学の調査を含む）、1997年レリツィ財団（Carlo Rosa氏）によるチャンパサック平原の地形学的調査、1997年レリツィ財団（Mauro Cucarzi氏とPaola Conti氏）とラオス情報文化省博物館考古学局（Samlane Luangaphay氏とPhonephan Sichanthongthip氏）による古代都市の地質学的調査、1999年レリツィ財団（Patrizia Zolese氏）とラオス情報文化省博物館考古学局（Thonglith Luangkhoth氏）による古代都市やホーンナムシダ及びタオタオの考古学的地形測量調査、1997～2000年レリツィ財団（LauraGiuliano氏）とイギリスのアルバート博物館（John Guy氏）とラオス情報文化省博物館考古学局（Samlane Luangaphay氏）によるチャンパサックサイトの運営管理訓練所で収蔵物登録などをレリツィ財団が中心となって、積極的に活動を行っている。

2-4 保有機材の現状と管理体制

2-4-1 保有機材の現状

ワットプー遺跡を含むチャンパサック遺跡のための機材は、1996年にユネスコがサイト運営管理用に供与した機材のみである。

主な機材は、ピックアップ車両4WD（発見遺物や調査機材の運搬用）1台、サイト警備用110cc

バイク 2 台、GPS（精度は±100m）1 台、電子セオドライト 2 台、平板 1 セット、プロジェクター 1 台、テレビ 1 台、ビデオ 1 台、カセット録音機 1 台、カメラ 1 セット、デスクトップ型コンピューター 3 台（内 1 台故障）、ラップトップ 1 台、プロッター 1 台、Zip ドライバー 1 台、スキャナー 1 台、インクジェット式プリンター 1 台、CD ライター 1 台、コピー機 1 台などである。

ほとんどの機材は、調査用機材が中心に購入され、修復作業を行うにあたって足りない部分が出てくると想定される。

[参考資料 No.13／写真参考資料 No.4]

2-4-2 保有機材の管理体制

常備 4 から 5 人が住んでいる 1996 年ユネスコの日本信託基金を利用して建設されたラオユネスコハウスの中の鍵が閉まる部屋に保管されている。鍵は、管理者と機材の責任者が責任を持って管理している。しかし、車両や現有機材の使用状況を示す台帳は存在しない。

3 協力の前提条件

3-1 遺跡に対する不利な条件の抽出

3-1-1 雨水や河川による被害

- ・旧排水システム

これまでの調査によれば、裏山から流下する雨水は、寺院敷地に入らないように寺院背後の境界擁壁の外側に掘った排水路で南に流れ Hong Ikam 川に排水され、また寺院敷地内に降った雨は、数条の排水路により中央階段から南側は Hong Ikam 川へ、北側は Houay Kok 川へ排水されていたと考えられている。

- ・現況

現在は、寺院背後の排水路が土砂で埋塞し境界擁壁も部分的に倒壊しているため、裏山から流下する雨水は直接寺院敷地に流入し、敷地に降った雨と相俟って敷地内を地表流となって東方へ流下する。また土壌がルースであるため（特に盛土部分）、雨水のかなりの部分が地下に浸透し地下水となって東、北、南方向へ流れる。

- ・雨水による被害

地表流は、勾配のある斜面をかなりの流速で流下するので、構造物を直接破壊し（特に北側テラス）、或いは構造物の基礎を洗掘し沈下、傾斜の原因となっている（神殿、北宮殿等）。地下水は細粒土砂を流すので、構造物の基礎を弱くし、これも沈下、傾斜の原因となっている。またテラス等盛土部分が地下水位の上昇によりクリーピング現象（緩慢な沈下、すべり）を起

こし崩壊している可能性も指摘されている。いずれにしても、遺跡の損壊の主たる原因は雨水にあり、雨水排水は遺跡の修復、保存に不可欠である。

[写真参考資料 No.3]

3-1-2 植生による被害

樹木等の植生の早さに追いつかず、樹木の根や幹による建築物への侵蝕についても多大な損害を受けている。低い建築物などは、樹木の植生や風による土の蓄積により埋もれていく。これらの伐採及び清掃を、日常業務の一環として取り組むことが必要である。

ワットプー遺跡の植生による被害の最も大きいカ所は、参道の階段部への侵蝕と本殿裏にある崖の植物による侵蝕の2カ所が挙げられる。

1カ所目の植生による被害の最も激しい場所は、100年前に植えられたといわれているチャンパの木による参道の階段部への侵蝕である。参道部の侵蝕しているチャンパの木は、あるカ所では地盤を固めている、景観に溶け込んでいる、ワットプーフェスティバルの目玉にもなっているなどの様々な理由から、慎重な対応が望まれる。

2カ所目の植生による被害の最も激しい場所は、寺院本殿裏にある崖の植物による侵蝕である。植物の根が崖に侵蝕し、崖の岩が剥離したり、崩落したりしているとても危険な状態で、早急な対応が望まれている。

3-1-3 人的被害

チャンパサク地域が南部ラオス地域・タイ・カンボジア・ベトナムに接しているなどの地理的重要地点であることから、交通網の整備や観光による経済成長が見込まれ、チャンパサク地域のインフラ整備がはじまり、これによる観光客や交通量の増加が想定されている。1991年の観光客数は3046名、2000年の観光客数は22885名と、ここ10年近くでも観光客の数は10倍の増加中である。これに加え、世界遺産へと認められた場合、近年の急激な観光客の増加に拍車をかけるものと思われる。

観光客が増えることは決して悪いことではないのだが、ワットプー遺跡やその他の遺跡で、現在それを受け入れるだけの施設や体制が整っておらず、観光客によるゴミ投機問題、危険建造物への進入、様々な箇所での弊害が出てきている。

また、盗難や故意による遺跡破壊などの被害は現在の所はほとんど発生していないが、その危険性が全く無いというわけではなく、現在までの所は奇跡的に起きていないというだけである。これから、広く世間の目に触れるようなことになれば、上記のような危険性が増加するものと思われる。

[参考資料 No.14]

3-2 ラオス側の実施体制

3-2-1 研究者

ラオスの研究者の能力は、情報文化省博物館考古学局長のトンサ氏（オーストラリア）を含めたビエンケオ氏（ブルガリア）、ブーンラップ氏（インド）などの研究者は外国で学位や修士や博士を取得している。また、これ以外の研究者に関しても積極的に東南アジア・日本・イタリア・アメリカなどでの研究会や研修に参加したり、海外の研究機関が行うワットプーでの発掘調査などへの参加を行ったり、日々その専門性に磨きをかけている。

[参考資料 No.15]

3-2-2 サイト運営管理事務職員

サイト運営管理事務所のほとんどの職員は、チャンパサック市在住である。地域住民の密な関係に支援されながら、仕事を遂行している。事務所長1名、所長代理2名、技術担当2名、事務担当4名、警備担当6名の合計15名から構成される。技術担当2名は、情報文化省博物館考古学局からの出向であり、そのうちの1名は日本で埋蔵文化財に関する研修コースを5ヶ月受けている人物で、文化財の扱い方には熟知した人材である。

3-3 他国や国際機関との連携の可能性

3-3-1 ユネスコ

ワットプー遺跡を含むチャンパサック保護区域の遺跡は、ユネスコ世界遺産へ登録を目指しているために、ユネスコの意見は必要不可欠である。

ユネスコアジア太平洋地域事務所の側としても、ラオス政府と共同で作製した運営管理計画を具体的に実行しようとしている本件への関心や期待も大きい。ユネスコアジア太平洋地域事務所のユネスコアジア太平洋地域文化アドバイザーのリチャード・エンゲルハート氏から、入手した情報の提供や助言・支援を約束していただいた。

3-3-2 フランス

フランスの調査は現在休止状態ではあるが、膨大な研究資料、経験豊富な人材などを保有している。これらの知識面での協力に関して協力していくことは可能であるとのことをフランス大使館文化担当のミシェル・トレウテナエレ氏は語っていた。

3-3-3 イタリア

イタリアは、レリツィ財団を中心に1991年から積極的にワットプー遺跡を含むチャンパサッ

ク保護地区内の遺跡に関係を深めている。排水問題についても取り組んでいるが、現在の段階では研究調査のみに留まっている段階で、調査結果を復元する段階には到っていない。

そうした中で、日本側が短期間で終わる遺跡周辺部での排水システムのリハビリを行ない、詳細な排水システムの復元に関してはイタリア側が行うとの住み分けを行うことは可能である。

3-4 協力に必要な情報の有無

3-4-1 世界遺産

ワットプーを含むチャンパサック遺跡の世界遺産登録は、2001年12月に登録される可能性が高い。しかし、「登録されるための一番の課題は、盗難対策である。」とユネスコアジア太平洋地域事務所のリチャード・エンゲルハート氏は語っていた。世界遺産に指定されるがために起こるであろう盗難問題への対応が望まれている。

3-4-2 アクセス状況

チャンパサック県庁のパクセからワットプー遺跡への距離は56kmある。途中車6台を搭載できるフェリーによるメコン河横断と許容範囲15tの橋2本が存在する。遺跡サイトまでの道路は、10m幅の舗装された道路8割、6m幅の軽く舗装された道路1割、7m幅の舗装されていない道路1割で構成されている。

また、ワットプー遺跡への最短ガソリンスタンドは約2km弱。この他に、チャンパサック市内2箇所でバイク用のガソリン販売が行なわれていた。

[写真参考資料 No.4]

3-4-3 業者状況

現地での邦人業者は、建設業者8社、商社9社存在する。

現地業者は、ワットプー遺跡を含むチャンパサック遺跡周辺のパクセやチャンパサック市に何社か存在する。灌漑施設建設や道路舗装などの作業を主に行っているチャンパサック市農業機械事業団はチャンパサック市内に存在し、チャンパサック市の管轄下ではあるが、独立清算的要素が強い。売上を機材の維持費や購入費に回し、円滑に作業を遂行している。また、チャンパサック県の県庁であるパクセを中心に、水タンク設置、小学校を建設、道路整備する会社は何社か存在し、チャンパサック県情報文化局から、実績のある業者数社を推薦していただいた。

[参考資料 No.16]

4 協力の可能性及び留意点

4-1 協力の可能性

4-1-1 排水対策

- ・雨水排水に関するユネスコの提案

ユネスコ調査 (Water Management:Restoration of Vat Phou Monument Site, ANNEX IV:VP/PS/10)

は次のように提案している。

場所	方法
神殿裏	<ul style="list-style-type: none">・寺院裏の山から流下する雨水は、寺院背後の境界擁壁の外側にある排水路を復旧し Hong Ikam 川に排水する。・排水路は境界擁壁と一体として復旧する。
神殿広場	<ul style="list-style-type: none">・広場を、中央付近を高くし南及び北方向に傾斜がつくよう整形し固める。・広場の東端（下流端）をカルバート状にし南及び北方向に排水する。
テラス～南北宮殿	<ul style="list-style-type: none">・テラスでは、遺跡両側（南、北）の低地に繋がる depressions を復旧または新設する。・石積み擁壁天端の石の間隙から水が流下しないよう石を置き替え間隙をなくする。・北宮殿の北西隅付近については、水路を宮殿基礎から離して補修する。・北宮殿中庭から川へスムーズに排水されるよう、掘削等により水路の勾配を修正する。
中央通路	<p>次の2つの選択肢がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・南側側壁の壊れている個所の上流側に通路に直角に砂岩を置くのみとし、なるべく現状を変更しない。・通路全体に anastylosis を行う。

上記の排水系統の内、寺院広場、テラス～南北宮殿、及び中央通路については基本的にユネスコの提案でよいと考えるが、寺院裏の排水については次のように提案したい。

- ・寺院裏山地からの雨水排水に関する提案

遺跡関連排水システムの中で、寺院裏山地から流下する雨水の排水が、水量、影響範囲（敷地全域に及ぶ）等から最も重要である。排水方法としては、下記のように（1）旧排水路の復旧、（2）山麓（寺院背後広場の西端）での水路の新設、及び（3）裏山中腹での流域外排水、の3つの方法が考えられる。なお、これまでの調査によれば、流域面積は約 0.02km²、流出量は 1.0m³/秒(10年確率)～3.0m³/秒（100年確率）程度である。

（1）擁壁に沿った旧排水路の復旧はユネスコが提案しているが、問題は、境界擁壁と一体として行う必要があるため、費用が嵩みデリケートな作業になり、長期間を要する可能性がある

ることである（ユネスコの報告書でも「costly and delicate operation owing to the presence of large numbers of archaeological artefacts」と書かれている）。この水路は、現在は埋もれて現地で確認できないが、「ANNEX IV:VP/PS/10 Water Management: Restoration of Vat Phou Monument Site, Lao PDR May 2000」によれば、形状は恐らく台形で、北から南方向に約2%の片勾配で傾斜し流末は Hong Ikam の低地であったであろうと推定されている。仮に文化遺産無償で実施する場合、期間の制約から事前に考古学的諸調査を完了しておかなければならないが、それが可能かどうか検討する必要がある（ラオス側は、寺院背後には重要な遺跡物はないので考古学的調査は簡単に実施可能であると考えている）。

(2) 山麓での水路の新設は、寺院背後広場の一番奥（西端）で山・崖の下端に水路を掘り、南側に導水し旧水路と同じ位置に末端処理をするものである。考古学的調査の必要は殆どないが、大きな落石や露岩のある可能性があり、また急な山腹を流下する雨水を止めることになるので、設計に工夫を要する。排水先と考えられる「Hong Ikam の低地」は南側擁壁の直ぐ近くにありますが、鬱蒼と樹林が繁っているので予備調査団は詳細を確認することができなかった。想定される水路の延長は西側境界擁壁の長さ（60m～70m?）に流末処理に必要な長さを加えせいぜい100m程度ではないかと考えられる。

(3) 裏山中腹での流域外排水は、裏山中腹に等高線に沿って排水路を設け、溪流及び山腹を流下する雨水の一部を遮断し北側及び南側に導き流域外へ排水する。この方法は、遺跡・景観に影響を及ぼさず、また山腹の侵食防止の面でのメリットもある（ガリーの拡大を防止し土砂流出、落石を軽減し、遺跡の保存に役立つ）。しかし、水路より下流の残流域からの雨水を処理するため神殿背後での排水も不可欠である。この案は現地踏査の際提案されたもので、これまでのユネスコ等の調査では検討されていない。構造物としては、ガリー（小溪流）に設ける小規模な遮水壁と水路からなり、まず地形測量を行って、流域境界の確認、ガリーの調査、構造物の位置・規模、効果を検討する必要がある。また、アクセスが良くないのでメンテナンスの可能性についても慎重な検討が必要である。水路の施工範囲としては、寺院に水が落ちる範囲に限定すればよく、水路を河川まで接続する必要はないと思われる。正確な延長については、現地測量が必要であるが、「ANNEX IV:VP/PS/10 Water Management:Restoration of Vat Phou Monument Site, Lao PDR May 2000」で集水面積が0.02kmとあるので、集水面積の幅（50m～100m?）に流末処理に必要な延長を加えせいぜい150m程度ではないかと考えられる。必要な本数については、雨量から流量を計算し排水量を決めなければならないものの、山腹水路は維持管理が容易でないこともあり（先方は問題ないと言っているものの）、また、所詮山麓水路をメインにしなければならないので、山腹水路を建設するにしても1本で十分と思われる。

上記（1）、（2）、（3）のそれぞれについて必要な調査を行い技術的検討を行った後、単独またはそれらの組み合わせで合理的な排水方法を決定する。方法としては（1）単独、（2）単

独、(1) + (3)、(2) + (3) の4つの組み合わせが考えられる。

[参考資料 No.19]

4-1-2 遺跡修復・保存のための機材供与

ワットプー遺跡の中でも、その1つ目のテラスに存在する南北宮殿（科学的調査が行なわれていない時期に“宮殿”と呼ばれ、現在までその名で定着している。最近の調査では、“僧坊”として使用された説が有力である。）は、ワットプー遺跡の顔ともいえる存在である。

この南北宮殿は紀元後11世紀初期に砂岩・ラテライト・レンガによって建てられ、側面には44mの遊歩道が存在する。それぞれの四角い建造物の中には、4つの細長い部屋と中庭が存在し、全長は62mから42mである。この四角い建物はすべて対称的に作られており、中庭から各細長い部屋に入る入口は綺麗な飾りがされている。

しかし、長年の自然の脅威に晒された南北宮殿は、ラテライトやレンガ部分の風雨による浸食やまぐさに使用された木材部分の腐食による北宮殿入口部、北宮殿北面、北宮殿西面一部、南宮殿入口部、南宮殿東面一部、南宮殿西面一部が崩壊し始めている。特に南北宮殿入口部の崩壊は、繊細で緻密なクメール美術が表現された彫刻の危険な状態もさることながら、南北宮殿を見学に来る観光客の安全が確保できず、早急な対応を必要としている。

ラオス政府側としても、南北宮殿の修復は必要不可欠かつ緊急性が高く、ユネスコなどの国際機関の支援を得て、東南アジアの遺跡建造物の第一人者であるピエールピシャール氏による南北宮殿の診断を行った。診断の結果、北宮殿の基礎がしっかりしており修復もさほど困難ではないことや北宮殿南西角の緊急的処置が行なわれた。しかし、小型クレーンなどの機材不足などの原因により、現在は具体的修復プランが実行できない状態にある。

このような状況の中、カンボジアのアンコール遺跡に対する文化無償で供与したような小型クレーンなどの機材を投与することは、効果的であると思料される。また、今回の新しい機材供与が決まれば、ワットプー遺跡保護区域内に新しい機材の倉庫建設予定地（50m×30m）を提供する準備は整っている。

[写真参考資料 No.8]

4-1-3 収蔵庫の設置

近年観光客の大幅な増加やワットプー祭りの開催などにより、観光客を相手とした土産物の生産販売・飲食物の提供・ワットプー遺跡に通じる道路整備（ワットプー祭りが開催される直前の年一回）といったワットプー遺跡への関わり合いが日々増加している。こうした状況の中、周辺住民のワットプー遺跡への関心は日々大きなものとなり、村の青年団による自主的なワットプー遺跡の警備活動の補助や周辺の小学校や中学校の授業題材への採用など様々な活動とし

て現れている。

これにも関わらず、1996年ユネスコの日本信託基金を利用して建設されたラオ・ユネスコハウス1階の収蔵庫には、綺麗に展示するスペースも無く、地域住民や観光客に公開されることなく、無造作に300点あまりのワットプーを中心としたチャンパサック遺跡の出土収蔵物が放置され、人々のワットプー遺跡への関心事に十分応えられずにいる。

現在、チャンパサック市内の中央にあるワットプーサイト運営管理事務所（38m×29m）が老朽化しているので、そこに新しく地域住民の啓発活動に繋がるような展示スペースを含めた収蔵庫の建築をラオス政府側は提案している。

[参考資料 No.17／写真参考資料 No.8]

4-1-4 塀の整備

ラオス政府側の塀に関する優先度は4番目ではあるが、遺跡保護警備を主な活動としているワットプーサイト運営管理事務所として最も必要としているものである。

現在、ワットプー遺跡の面積72haの内、42haについてはフェンスにて覆ってはいるが、最も低い場所の東から西の方向に存在する紀元後10から11世紀頃に建てられたと思われる大きな貯水池（200m×600m）などの周辺域にはフェンスで覆われておらず、一部では畑の耕作による埋蔵文化財の破壊や放牧された家畜による立っている記念碑を倒すなどの被害が出ている。そのほかにも世界遺産認定後の盗難の危険性を減らすためにも塀の整備拡張は必要である。

ラオス政府側としては、現在のバラセンとコンクリートで敷設された高さ1.5mのフェンスより、景観を考慮に入れたラテライトで作製した塀を提案している。材料となるラテライトの採掘場は、チャンパサック市から20km南下した場所に存在する。

[参考資料 No.18／写真参考資料 No.8]

4-2 協力の意義や効果についての考察

4-2-1 排水対策

ワットプー遺跡の建設された経緯を考えると、擁壁に沿った旧排水路の復旧が最も現状復旧に近いことであることについては論を待たない。しかし、これは文化遺産である境界擁壁と一体として行う必要があるために、遺跡に直接手を加えるものである。また、現在は埋もれてしまっているために、まず発掘から始める必要があるだろう。このような考古学的諸調査を含む工事は慎重に行う必要があり、我が国が想定している文化遺産無償としての協力には馴染みにくい。

また、長年にわたる気象の変化やカオ山の土地利用や植生の変化により、クメール文化時代と現在のワットプー付近の流出量が同じであるともいえない。このことは、仮に現状復帰しても、遺跡保護の観点からは何らかの追加的処置も必要と思われる。このような理由から、我が

国が想定しているような遺跡に直接さわらないように排水処理を施すことは意味があることであるし、カオ山の斜面の安定にもつながり、効果的かつ現実的な対応と言えるであろう。

4-2-2 遺跡修復・保存のための機材供与

ワットプー遺跡の中でも、南北宮殿はワットプー遺跡の顔ともいえる存在である。貯水池の参道から歩くとはじめに会う建造物であり、その存在はとても大きいものがある。これらを修復することは、ただ単に遺跡を修復するだけでなく、遺跡の第一印象を大きく向上させ、観光客をより一層呼び込むことに繋がると思料される。

しかし、遺跡の価値を上げることも大事ではあるが、それ以上に観光客の安全を確保する上にも必要な作業である。今後インフラ整備や世界遺産の登録といった要因による観光客の増加は必須ではあるが、現在の南北宮殿の状態では何時大惨事が起きてもおかしくない危険な状態にある。

また、現在ラオス国内には雨季の雨水や植生により倒壊、更に倒壊したが故に以前まで機能していた排水システムが崩壊し、より大きな被害を受け、遺跡の寿命を縮めている遺跡がワットプー遺跡を含め数多く存在する。そうした状況を改善するために海外での遺跡修復研修や研究会などへ積極的に職員を参加させてはいるが、研修後にその技術を発揮する場所や機会も無く、経験を積むことができない状況にある。

そこで、石造（レンガやラテライトを含む）建造物であるクメールの石造建造物の修復に関してはほとんど経験が無い彼らに機材のみでは無く、彼らにアドバイスを与えることのできる東南アジアのクメール建造物の修復に経験豊富な専門家を派遣し、ある程度期間作業を一緒に行うことにより、彼らに経験や知識を積むことができれば、ワットプー遺跡の修復作業を終了した後に他の遺跡へとその技術や知識は活かされ、ラオス国内での石造建造物への修復作業向上への場所と機会を与えることになる。

4-2-3 収蔵庫の設置

現在、貴重な文化財が活用されず死蔵されている状態を改善することは、とても効果的である。観光客を満足させ地元経済を潤すことは重要ではあるが、それ以上にチャンパサック遺跡周辺の住民への啓発活動が重要である。遺跡修復保存の中心的役割を担うのは、研究者たちもさることながら、最も重要な役割を担うのは遺跡周辺の地域住民である。遺跡を保護するも、破壊するも、彼らの遺跡に対する正しい知識や認識にかかっている。

そうした中、周辺住民の遺跡への正しい知識や認識を高めるには、実物を見ることとともに学ぶ機会を与えることができる展示スペースを兼ねた収蔵庫はとても有効である。このような機会を得て遺跡に関する正しい知識や認識を学んだ周辺住民は、直接間接的に遺跡保護保存活

動の重要な役割を担うこととなる。

4-2-4 塀の整備

畑の耕作による埋蔵文化財の破壊や放牧された家畜による立っている記念碑を倒すなどの被害を防ぐのにとっても効果的である。遺跡に関して特段の知識も無く、遺跡サイト内で耕作や放牧を行う住民（従って特に耕作は不法占拠と言える）に対し、塀の中が遺跡保護区であることを彼らに目で見える形で示し進入させないように啓発するとともに、実際に侵入することを防ぎ埋蔵文化財を保護することができる。また、現在 24 時間いつでも進入することができる家畜に対して、頑丈な塀を設置することにより、家畜が記念碑を倒す被害や糞による被害をほぼ 100%解決することができる。現在 6 名の警備スタッフが行っている家畜への配慮（家畜を追い払う行為や倒れた記念碑を戻す作業など）する時間が大幅に軽減し、その軽減された部分を警備の時間に費やすことができ、結果的には対盗難対策にも有効的である。

インフラの整備、観光客の増加、世界遺産認定の可能性などチャンパサック遺跡への関心は日増しに増加する一方、盗難の可能性も飛躍的に増加すると思料される。このような危険性が増大する中、現在 6 名の職員により警備が行なわれてはいるが、最小限のゾーン 4 の遺跡運営区域だけでも 285ha が散らばっており、ワットプー遺跡サイトの見回りだけで、十分な成果をあげることができていない状況である。こうした中、塀を整備することにより、耕作や家畜から守るとともに盗難の危険性を下げることができる。

4-3 基本設計調査の範囲、主な内容、専門分野

4-3-1 排水対策

4-1-1 の排水対策で述べたように、提案した 3 つの方法については、基本設計調査の中で必要な調査を行い、単独またはそれらの組み合わせで合理的な排水方法を決定する必要がある。

また、ラオス側関係者の説明では、最終的な排水先である 2 つの河川（Hong Ikam 川、Houay Kok 川）で部分的な掘削と護岸が必要であるとのことであった。現地踏査では詳細に調査できなかったが、Houay Kok 川は十分な断面を有しているが Hong Ikam 川は下流の一部で断面が小さいように見受けられた。基本設計調査でその要否を検討する必要がある。

4-3-2 遺跡修復・保存のための機材供与

修復作業箇所は、最も危険な箇所である南北宮殿入口部の 2 箇所、面積は約 0.02ha である。修復方法は、実際に現場でワットプー遺跡の診断をした、ピエールピシヤール氏は「崩れ落ちた部分を積み上げるだけの作業とし、必要最小限のコンクリートを使用する。」ことを提案している。作業手順は、基礎構造調査、写真測量を中心とした建造物の測量、建築材のナンバーリ

ング、解体作業、組み合わせ作業、再構築作業といった作業に大きく分けられ、右の修復作業に合う機材・現況機材・管理体制・維持などを検討し、機材を決定すべきである。

また、単独の機材供与よりもより有効な手段として専門家による技術協力を想定されるのであれば、そのような専門家を技術参与として基本設計調査に参加できる方が良いと思われる。幸いユネスコの文化遺産保存日本信託基金による日本国政府アンコール遺跡救済チーム（JSA : Japanese government team for Safeguarding Angkor）がワットプー遺跡と同質のアンコールワットの遺跡修復作業を 1994 年 11 月より手掛けており、知識や経験豊富な適任の人材が存在する。

4-3-3 収蔵庫の設置

チャンパサック市内にあるワットプーサイト運営管理事務所（38m×29m）を改築し、展示は地域住民の啓発活動を活性化させるためにも欠かせない条件の 1 つなので、収蔵物 300 点の内の一部を公開できるような展示スペースを兼ねた収蔵庫の建設をラオス政府側は提案している。

4-3-4 塀の整備

ラオス政府側は、ワットプー遺跡サイトの現存するフェンスの拡張を希望している。大きな貯水池を含んだワットプー遺跡サイトの保護区域すべてをフェンスで覆いたい意向である。総延長は約 2700 メートルと推定される。拡張するフェンスは、現在のバラセンとコンクリートで敷設された高さ 1.5m のフェンスより、景観を考慮に入れたラテライトで作製した塀を提案している。石材のラテライトの採掘場は、チャンパサック市から 20km 南下した場所に存在する。

4-4 協力にあたっての留意点

4-4-1 排水対策

Champasak 遺跡群はメコン川西岸にあり、雨期にはメコン川及び支流からの洪水がこの地域に広範囲に氾濫するので、その氾濫の影響を受けて Hong Ikam 川及び Houay Kok 川の水位が高くなる。雨期における氾濫水位及びこれら 2 河川の水位について調査し、ワットプー遺跡からの排水に支障がないか確認する。（ワットプー寺院遺跡は海拔 100m から 200m の範囲にあるので（神殿：180m）、これら河川の水位がある程度上昇するにしても遺跡からの排水には支障がないと考えられるが、念のため最近の洪水（1996 年、2000 年）について検証する）

本計画により Hong Ikam 川及び Housay Kok 川へ排水した場合、両河川周辺の住民に悪影響を及ぼさないか調査する。基本的には、本計画は「修復」なので（もともと両河川に排水されていたのでその状態に復するもの）従前の状態より悪くすることにはならないが、住民対応の

ため河川周辺の土地利用状況や排水による河川の水位上昇の計算等を行い、修復の影響を調査しておく。なお、河川周辺は遺跡保護区に指定されておりこれを一部住民が不法に占拠しているもので、政府は保護区以外の土地を与え、不法占拠を解消したいと考えている。

4-4-2 遺跡修復・保存のための機材供与

文化遺産修復作業はそれぞれの国でそれぞれの方法があり、たくさんの修復方法が存在する。どの修復方法を選択するかにより、使用される機材も変化する。ワットプー遺跡に関しては、ピエールピシャール氏による修復プランが存在する。彼は東南アジアの遺跡建造物に関して幅広い知識・経験・実績があり、ラオス政府を含めユネスコにおいても彼の信頼度は、非常に高いものがある。このような状況の中、遺跡修復保存作業に必要な機材を供与するにあたって、彼の意見を無視すると後々問題が生じる可能性があり、基本設計調査時には彼との意見交換は必須である。

また、ラオスの唯一の世界遺産であるルアン普拉バンを維持管理している職員を統括している博物館考古学局ではあるが、今回のような修復作業は初めてという面もあり、単独の機材供与ではなく、国際交流基金からのユネスコへの専門家派遣や JICA からの国際機関への個別専門家派遣などの技術協力が必要である。但し、修復作業が不成功に終わった場合、援助国と遺跡保有国との外交問題に発展しかねないので、援助国から直接ではなくユネスコを通じた専門家派遣の形態を採用した方が無難である。

4-4-3 収蔵庫の設置

ラオス側は、町の中心道路に接している、町の中心地に存在する、土地が政府のものである、河から離して建築すれば問題ないなどの理由から建築希望地を現在のワットプーサイト運営管理事務所の所在地に収蔵庫建設を建設する希望を出しているが、希望している場所がメコン河に接しており、毎年メコン河による河川の浸食にあっている箇所なので、場所の再検討をした方が良いと思料される。

4-4-4 塀の整備

ワットプー遺跡のフェンス拡張について問題はないが、その他のゾーン 4 の遺跡運営区域 (285ha) に関して、もう一度検討する価値はあると思われる。ほとんど見回ることができずに終わってはいるが、歴史的・美術的に非常に価値のある不動産的文化遺産 (ゾーン 4 の遺跡運営区域の寺院や記念碑群) の一部にでもフェンスをかけることが可能であれば、検討する価値が高い。

4-4-5 ラオス側プロジェクトチームの編制

現在、上記の協力が具体的に実施されれば、プロジェクトチームの編制が情報文化省博物館考古学局長であるトンサ氏により検討されている。チームの編制には情報文化省やチャンパサック県情報文化局が中心となるが、情報文化省だけに限らず通信・運輸・郵政・建設省（実際に重機の使用や管理ができる人材）や科学・技術・環境国立機関（コンピューターによる情報の編集保存や管理ができる人材）などの幅広い人材も採用される予定である。無償プロジェクトが終了した後は、ワットプー遺跡運営管理事務所にプロジェクトチームの一部は併合され、維持管理を担当していく予定である。

どのような人材が現在検討されているのか、それらの人材の実績はどのようなものなのか、具体的にどのように機能していくのか、基本設計時及び案件実施時に継続して見極める必要があると思われる。

参 考 资 料

参考資料

参考資料 A 団員リスト

参考資料 B 調査日程

参考資料 C 面接者リスト

参考資料 No.1 地図（ラオス人民民主共和国）

参考資料 No.2 地図（サイト地図）

参考資料 No.3 地図（ラオス人民民主共和国行政区分）

参考資料 No.4 サイト保護の地方条例（38/88）（1988年10月11日）

参考資料 No.5 文化・歴史・自然遺産保護に関する大統領令（1997年6月20日）

参考資料 No.6 ワットプー遺跡省庁間調整委員会（NIMCC）委員名簿

参考資料 No.7 情報文化省博物館考古学局 組織図

参考資料 No.8 チャンパサック県情報文化局 組織図

参考資料 No.9 ワットプーサイト運営管理事務所 組織図

参考資料 No.10 地図（チャンパサック遺跡運営管理計画）

参考資料 No.11 ワットプーサイト運営管理事務所の活動

参考資料 No.12 ユネスコや日本を含む諸外国の支援の現状

参考資料 No.13 保有機材の現状

参考資料 No.14 観光客数

参考資料 No.15 海外での研修実績表

参考資料 No.16 現地業者リスト

参考資料 No.17 地図（収蔵庫予定地）

参考資料 No.18 地図（フェンス予定地）

参考資料 No.19 地図（排水施設計画図）

参考資料 A

調査団員リスト

	名前	職位	勤務先	期間
1	江端康行	団長	外務省文化交流部政策課	ラオス 2000.1.30～2.6
2	大井英臣	水文調査	国際協力事業団 国際協力専門員	タイ 2000.2.1～2.2 ラオス 2000.2.2～2.6
3	片木辰弥	遺跡調査	国際協力事業団	タイ 2000.1.30～2.14 ラオス 2000.2.14～2.16
4	杉山茂	計画管理	国際協力事業団 無償資金協力部 業務第三課	タイ 2000.2.1～2.3 ラオス 2000.2.3

参考資料 B

ラオス人民民主共和国ワットプー遺跡保存修復計画予備調査日程表(1/29～2/16 2001)

日	時間	事項	場所	調査団構成員
1/29	Mon	10:30 成田出発 (TG641) 15:30 バンコク到着 (TG641)	Tokyo Bangkok	江端団長・片木団員
1/30	Tue	08:20 バンコク出発 (TG690) 09:30 ウィエンチャン到着 (TG690) 11:00 JICA ラオス事務所表敬 14:15 在日本大使館表敬 17:00 在フランス大使館の文化担当官との意見交換	Bangkok Vientiane	江端団長・片木団員
1/31	Wed	09:00 NIMCC との打ち合わせ 13:00 情報文化副大臣表敬	Vientiane	江端団長・片木団員
2/1	Thu	08:00 ウィエンチャン出発 (陸路) 20:30 バクセ到着	Vientiane	江端団長・杉山団員 (他調査団より合流)・片木団員
2/2	Fri	08:30 チャンパサック県副知事表敬 09:30 チャンパサック県情報文化局表敬 12:00 チャンパサック市長表敬及び会食 13:30 サイト (ワットプー) 調査 17:00 チャンパサック市出発 19:00 チャンパサック県副知事招待による会食	Pakse	江端団長・杉山団員・片木団員 大井団員合流 (16:00)
2/3	Sat	08:00 バクセ出発及びサイト (ワットプー) 調査 12:00 サイト (ワットプー) 食事 14:00 ラオネスコハウス視察 15:00 レイタイ財団との会談 16:00 サイト (古代都市) 調査 17:00 チャンパサック市出発	Pakse	江端団長・大井団員・杉山団員・片木団員 杉山団員出発 (11:00)
2/4	Sun	10:30 NIMCC (チャンパサック地域代表) との会議 14:30 食事 15:00 チャンパサック市住民との対話 サイト (ホーナムシタ) 調査 サイト (ワットプー) 調査 19:00 チャンパサック市長招待による会食及びセレモニー	Pakse	江端団長・大井団員・片木団員
2/5	Mon	11:40 バクセ出発 (QV512) 12:50 ウィエンチャン到着 (QV512)	Pakse Vientiane	江端団長・大井団員・片木団員
2/6	Tue	10:00 NIMCC との打ち合わせ 11:00 ミニッツ締結 12:00 JICA ラオス事務所主催会食 16:20 ウィエンチャン出発 (QV415) 17:40 バンコク到着 (QV415) 19:00 JICA ラオス事務所打ち合わせ	Vientiane	江端団長・大井団員・片木団員 江端団長・大井団員 江端団長・大井団員 片木団員
2/7	Wed	08:30 今後の予定を協議 10:45 チャンパサックの水位データの収集 15:00 博物館考古学局等のデータ収集 17:00 JICA ラオス事務所予定確認	Vientiane	片木団員
2/8	Thu	10:00 博物館考古学局の機材等確認 11:30 チャンパサックの水位データ収集 13:30 NIMCC データの収集 16:00	Vientiane	片木団員

2/9	Fri	09:00 12:00 13:00 16:00	情報文化省のデータ収集 昼食 行政地図等のデータ収集 パakseでの事前打ち合わせ	Vientiane	片木団員
2/10	Sat	06:00 18:00	ウエンチャン出発（陸路） パakse到着	Pakse	片木団員
2/11	Sun	09:00 12:00 13:00 16:00	サイト（管理事務所）調査 昼食 サイト（収蔵庫・保管庫予定地）調査 チャンハサック市データ収集	Pakse	片木団員
2/12	Mon	09:00 12:00 13:00 16:00	チャンハサック県データ収集 昼食 サイト（現有機材）調査 サイト（管理事務所活動）調査	Pakse	片木団員
2/13	Tue	09:00 12:00 13:00 16:00	サイト（柵予定地）調査 昼食 チャンハサック市データ収集	Pakse	片木団員
2/14	Wed	11:30 13:00 19:40 20:45	パakse出発（陸路） 国境到着 ウボンラチャター出発（TG031） バンコク到着（TG031）	Pakse Bangkok	片木団員
2/15	Thu	10:00 12:30	ユネスコとの意見交換	Bangkok	片木団員
2/16	Fri	11:20 19:00	バンコク出発（TG640） 成田到着（TG640）	Bangkok Tokyo	片木団員

参考資料 C

面談者リスト

	名前	職位	勤務先
1	Khaekkeo SOYAYA	副大臣	情報文化省
2	Bounleuane DOUANGCHANTHA	局員	情報文化省官房局
3	Thongsa SAYAVONGKHAMDY	局長	情報文化省博物館考古学局
4	Suraphi VILAVONG	歴史的記念碑 及びサイト担当	情報文化省博物館考古学局
5	Viengkeo SUKSAVALDY	考古学調査担当	情報文化省博物館考古学局
6	Sengkham PHOMKHE	副知事	チャンパサック県庁
7	Sonxay SIPHANDONE	事務担当	チャンパサック県庁
8	Sipaseuth SANSAVATH	局長	チャンパサック県情報文化局
9	Siphane PHONTSADY	副局長	チャンパサック県情報文化局
10	Khamthong SILAPHET	事務担当	チャンパサック県情報文化局
11	Bounlap KEOKANGNA	文化担当	チャンパサック県情報文化局
12	Bounhieng SUKSAMLANE	市長	チャンパサック市役所
13	Bounthong SAYTHAVI	事務担当	チャンパサック市役所
14	Tha SILICHANTHO	文化担当	チャンパサック市役所
15	Sisavai AKHAVONG	副市長 事務所長	チャンパサック市役所 チャンパサックサイト管理事務所
16	Sisamuth MAMKHENTHAO	議長	地方遺産委員会
17	Ounheuane PHOMMAVIXAY	NIMCC 職員	科学・技術・環境国立機関
18	Phouvong SAYALATH	NIMCC 職員	科学・技術・環境国立機関
19	Khom DOUANGCHANTHA	NIMCC 職員	観光庁
20	Richard A ENGELHARD	文化アドバイザー	ユネスコ アジア太平洋地域事務所
21	Beatrice KALDUN	職員	ユネスコ アジア太平洋地域事務所

22	Michel TREUTENAERE	文化担当官	在ラオス フランス大使館
23	Mauro CUCARZI	理事	レリツイ財団（イタリア）

1. IDENTIFICATION OF PROPERTY _____

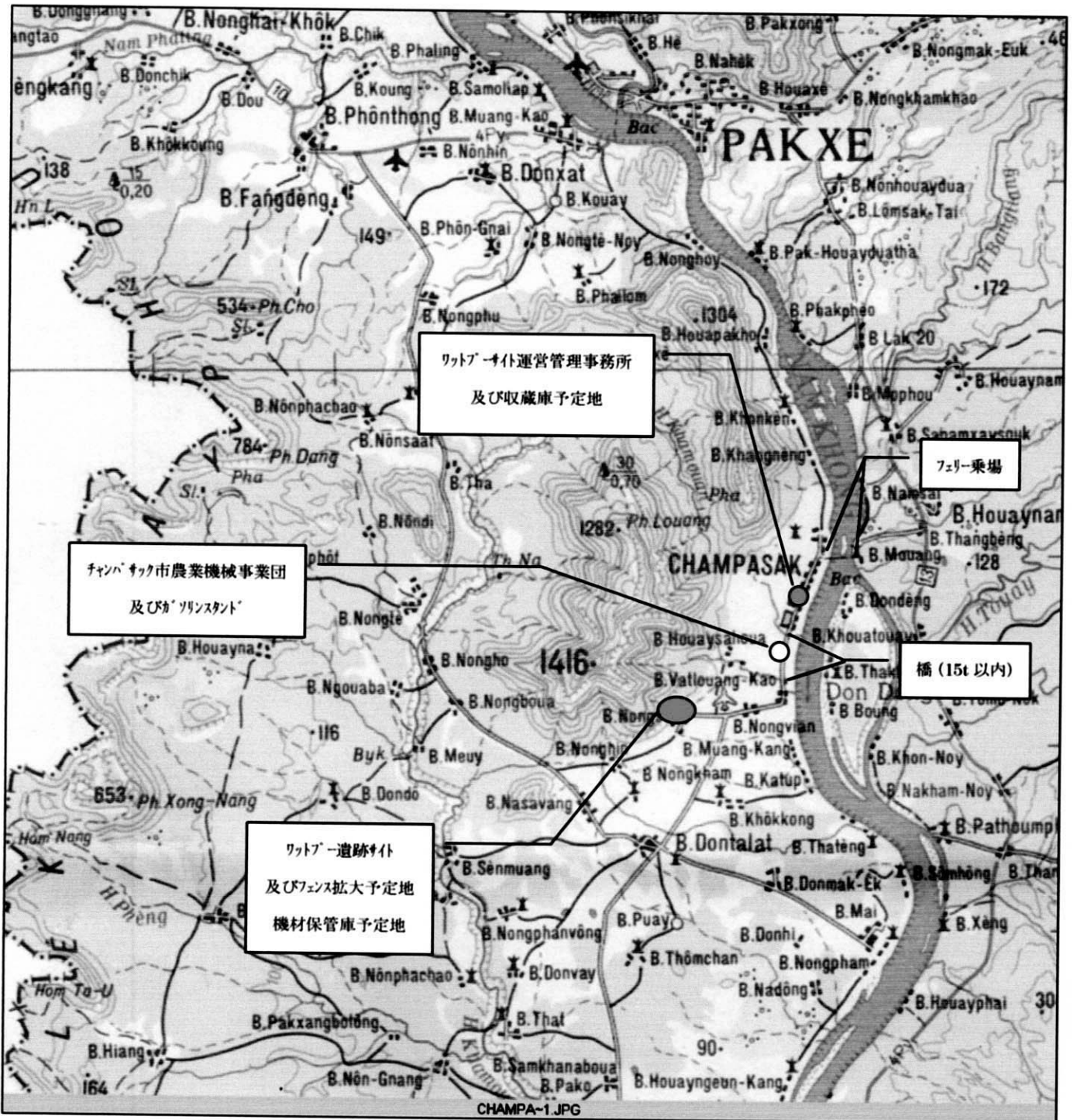
1.a Country:

Lao People's Democratic Republic



参考資料 No.2…地図 (サイト地図)

【ワットプー遺跡サイト地図】

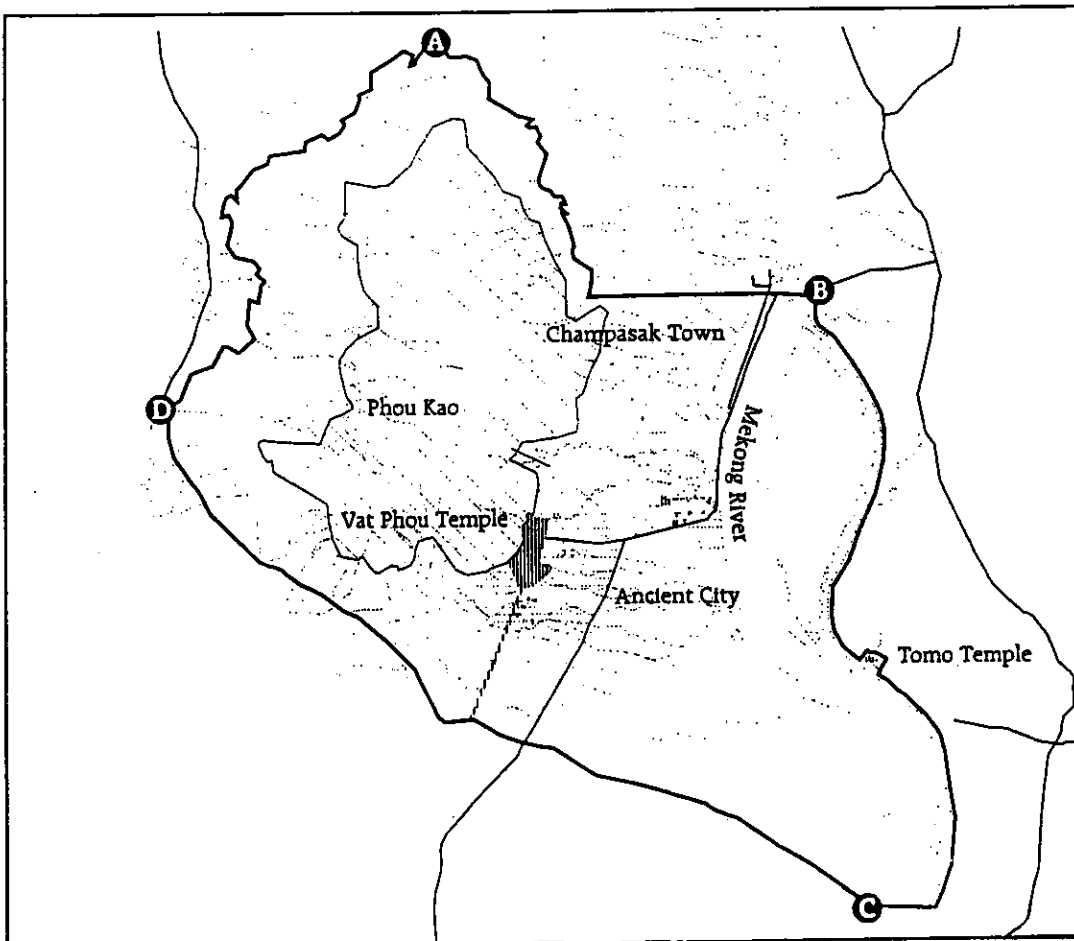
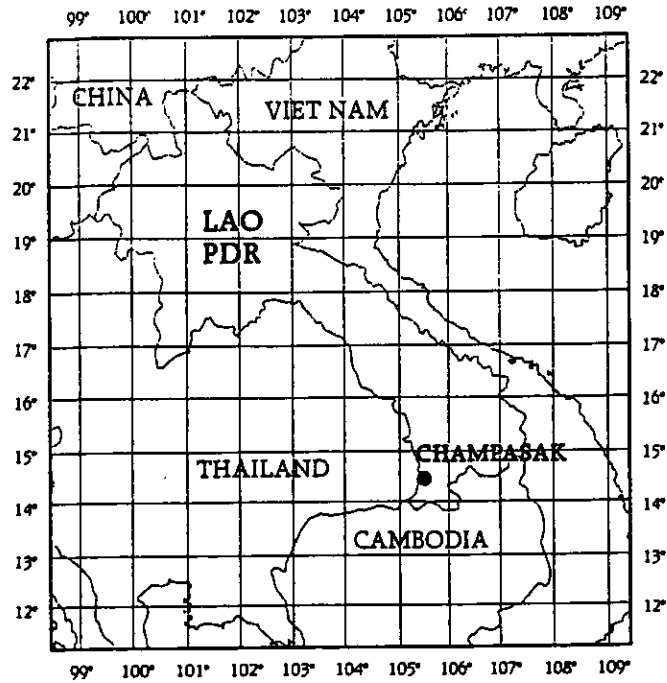


Exact Location and Geographical Coordinates:

The Champasak Cultural Landscape is an area of 390 square kilometres, centred on the Khmer-period Vat Phou Temple Complex on the west bank of the Mekong River in southern Lao PDR.

Its coordinates are:

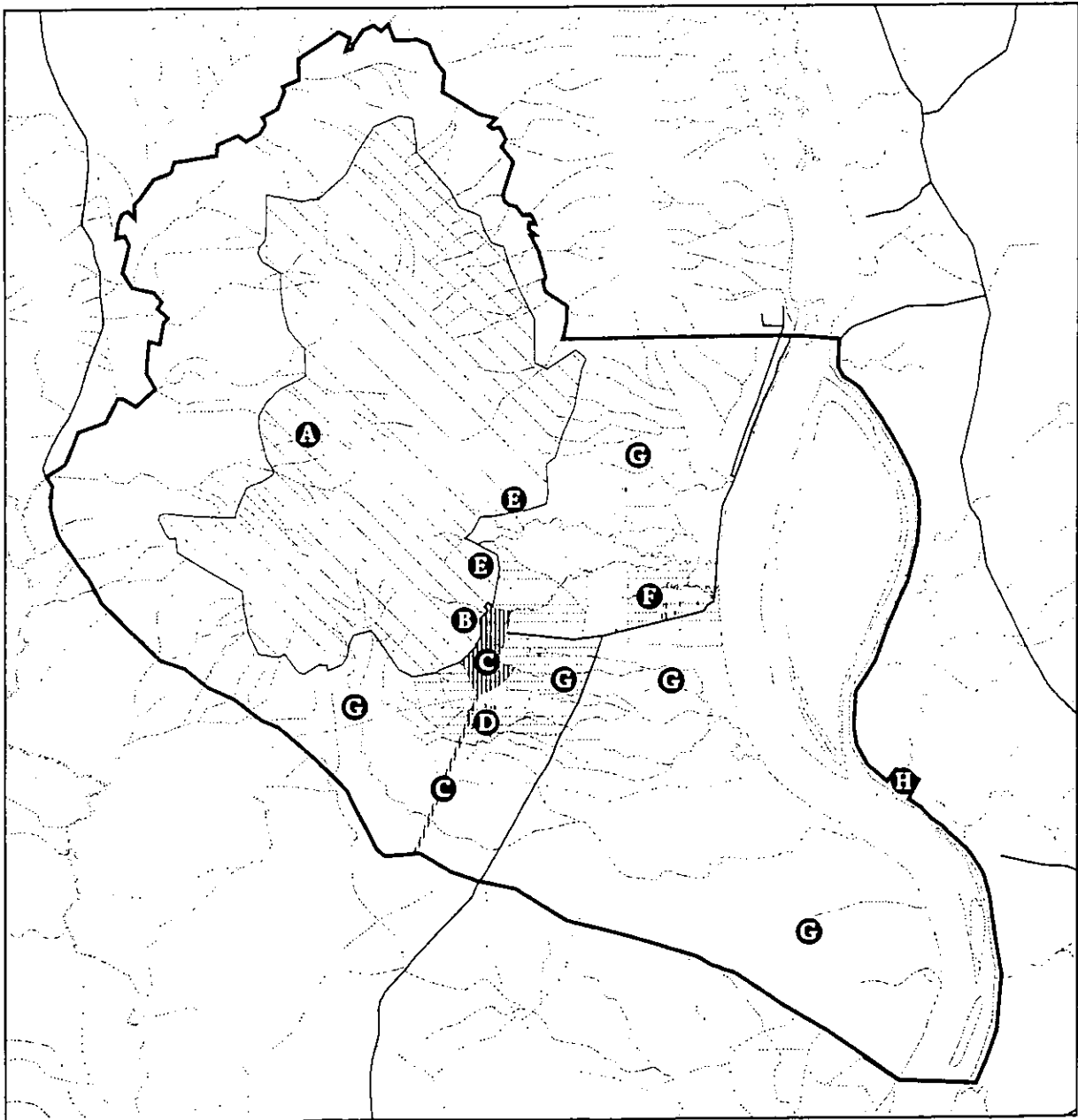
- A (most northerly point)
Longitude 105° 47' 23"
Latitude 14° 59' 45"
- B (point at which northern boundary intersects the east bank of the Mekong River)
Longitude 105° 54' 10"
Latitude 14° 55' 20"
- C (point at which southern boundary intersects the west bank of the Mekong River)
Longitude 105° 54' 56"
Latitude 14° 44' 50"
- D (most westerly point)
Longitude 105° 42' 23"
Latitude 14° 53' 10"



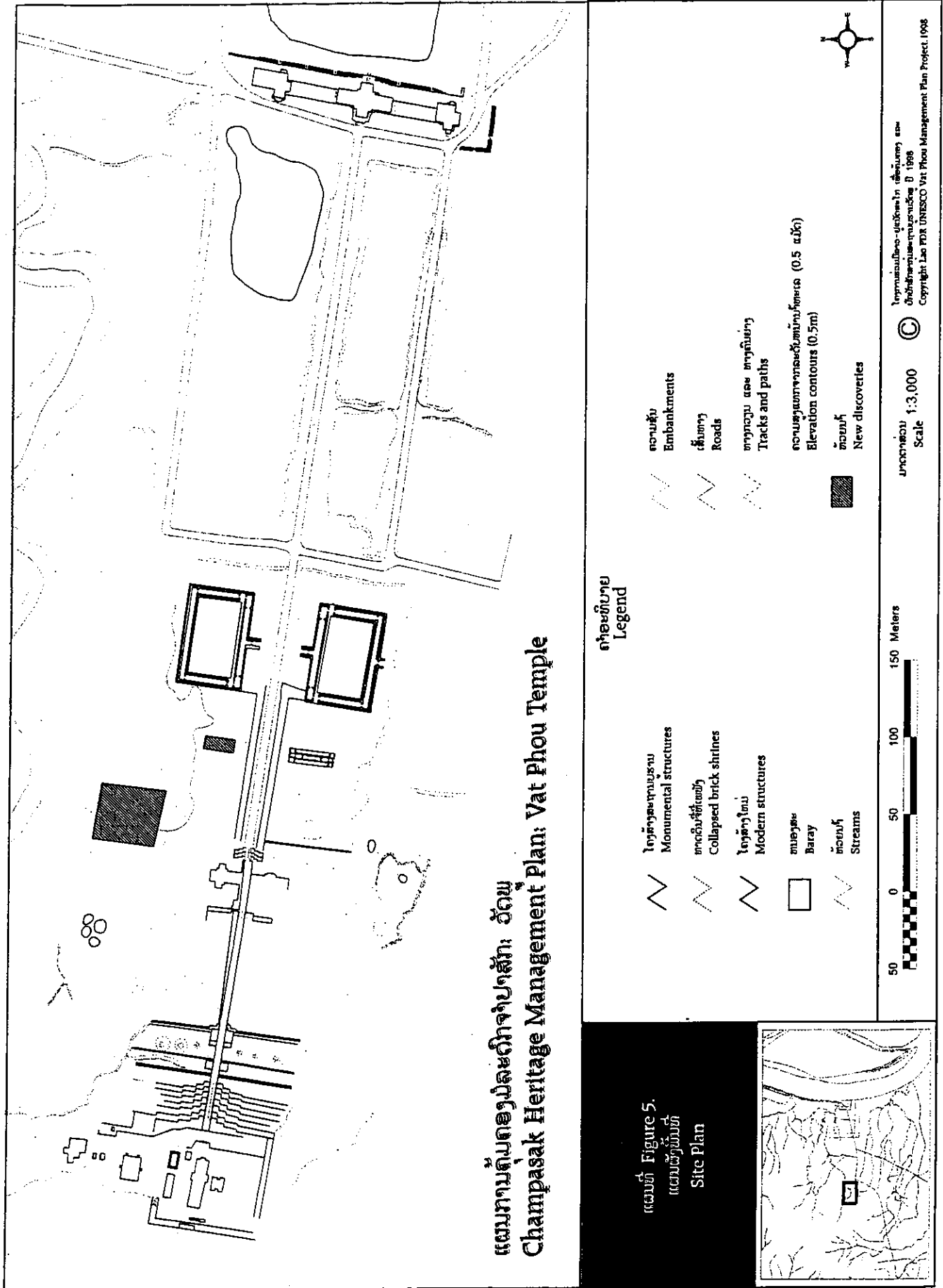
The Archaeological Sites of the Champasak Cultural Landscape

For ease of reference, the sites are considered in a number of topographical groups working more or less from west to east. They are:

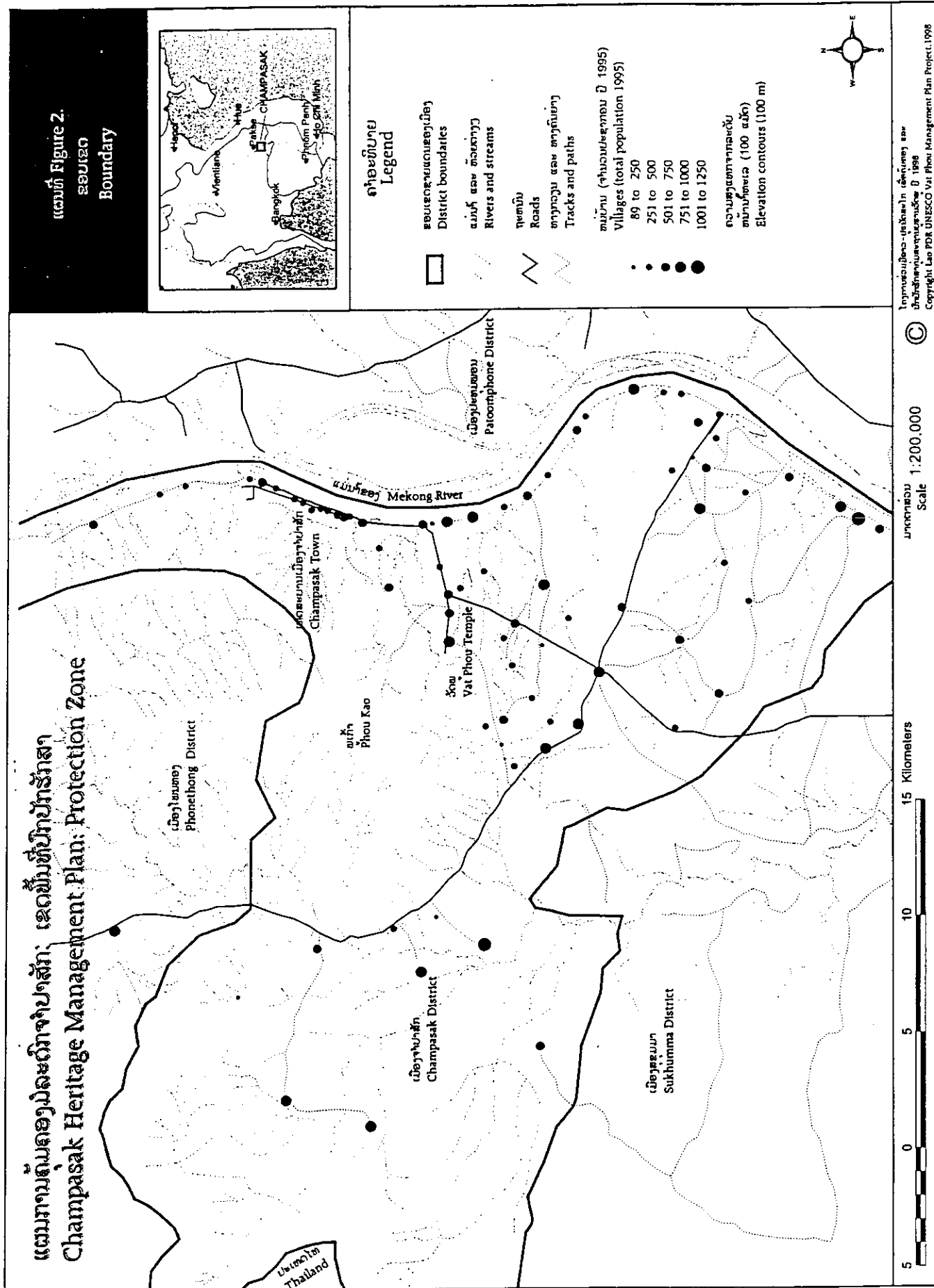
- A Phou Kao Mountain
- B Vat Phou Temple Complex
- C Hong Nang Sida Area South of Vat Phou, including the Ancient Road
- D Thao Tao Temple
- E Temples and Inscriptions to the North of Vat Phou
- F The Ancient City
- G Other Sites on the Champasak Plain
- H Tomo Temple



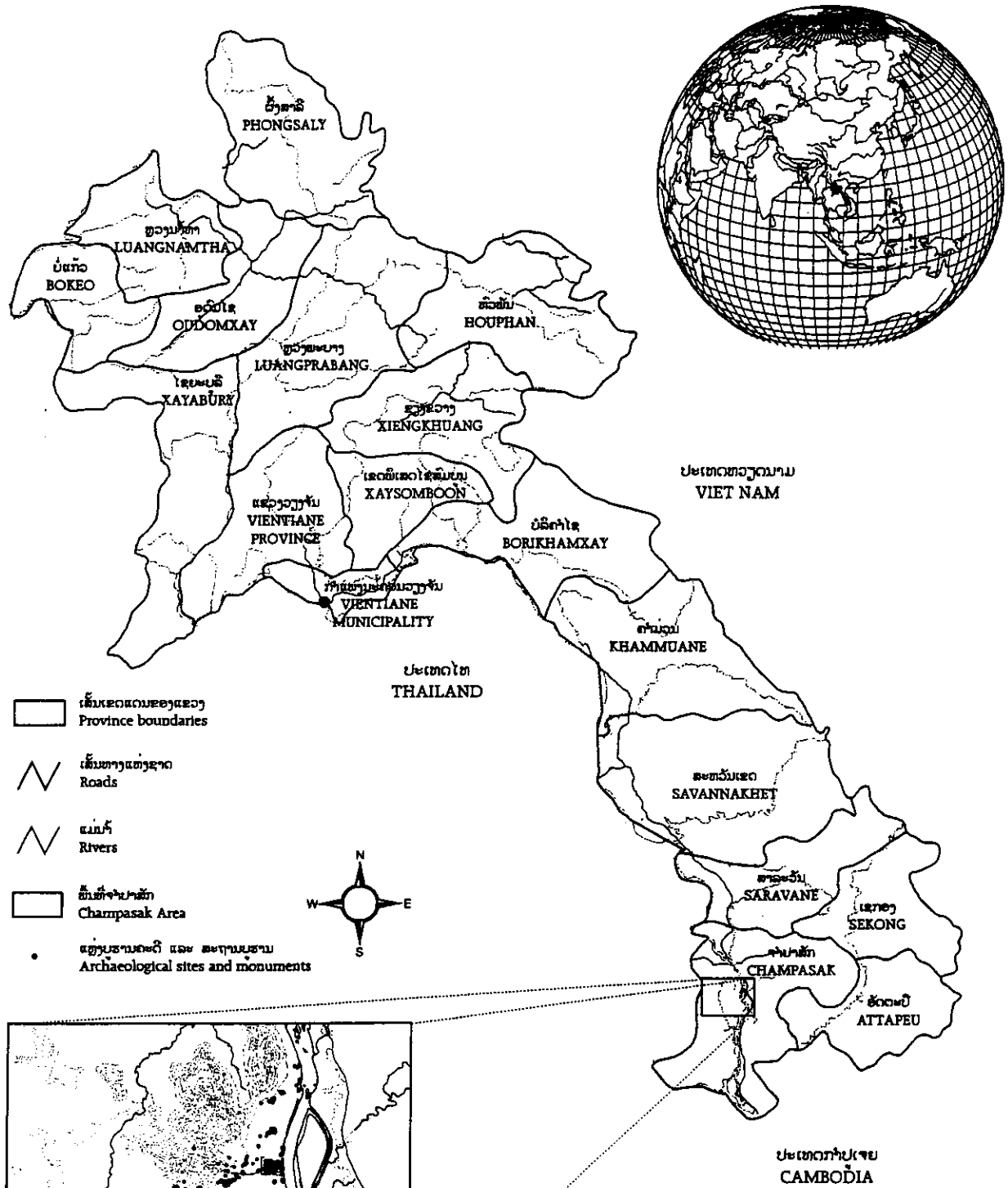
Locations of the archaeological sites of the Champasak Cultural Landscape



ແຜນທີ່ Figure 5.
ແຜນຕັ້ງພື້ນທີ່
Site Plan



ແຜນທີ່ Figure 1. ທີ່ຕັ້ງຂອງເມືອງຈຳປາສັກ
Vat Phou Champasak Location Map



© ໂຄງການຄຸ້ມຄອງເມືອງ-ປະເມີນຄວາມ ທີ່ຕັ້ງຂອງ ແລະ ທີ່ປັບສັກສວນວັດຖຸບູຮານວັດຖຸ ດ 1996
Copyright Lao PDR UNESCO Vat Phou Management Plan Project.1996

参考資料 No.4…サイト保護の地方条例 (38/88) (1988年10月11日)

PROVINCIAL DECREE

Provincial Decree on the Regulations for the Preservation
of the Historical Site of Vat Phou and the Areas Related
to Vat Phou, No. 38/88

ມະຕິຕົກລົງຂອງແຂວງ

ມະຕິຕົກລົງຂອງແຂວງກ່ຽວກັບການຄຸ້ມຄອງ ແລະ ປົກປັກຮັກສາ
ສະຖານບູຮານວັດພູພ້ອມດ້ວຍພື້ນທີ່ ເລກທີ 38/88

LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
PEACE INDEPENDENCE DEMOCRACY UNITY AND PROSPERITY

Champasak Province

No. 38/PG

Provincial Executive Board Committee

**DECREE of the Provincial Executive Board Committee concerning the Rules
on Preservation and Restoration of Vat Phou Monuments and Associated Sites**

- ◆ Based on the decision of the IV Resolution Meeting of the Central Party Revolutionary Committee concerning the preservation and investigation of various archaeological sites which are considered as the most valuable National Cultural Heritage.
- ◆ In pursuance of an order of the Ministerial Council No. 154/PM dated 8/5/1981 concerning prevention and interdiction of unauthorised excavation of valuable artefacts.
- ◆ Based on the agreement of the Ministerial Council No. 48/MC dated 24/3/1982 concerning the preservation of the National Cultural Heritage of Lao PDR and also in pursuance of the signed contract on the cooperation between the Government of Lao PDR and UNESCO and UNDP No.86/00/1/13 dated 7/8/1987 concerning the preservation of Vat Phou Champasak Monument Project.

Vat Phou Champasak is an architecturally rich and well-known ancient monument. Vat Phou consisted of palaces, halls and temples that contained sculptures, sandstone carvings and other valuable objects that the ancient people used in the construction of this monument. All these valuable things indicated the ancient people's intelligence and ability. These charming and fascinating handmade sculptures and artefacts gradually became a symbol of the National Culture.

In the old regime, imperialism and the reactionary party had turned this monument area into their own source of income by excavating the valuable artefacts and selling them to other countries. Their



PROVINCIAL DECREE



excavation destroyed this historical archaeology. Since the country was established as Lao People's Democratic Republic, the remaining artefacts were stolen by some bad people without consideration for the loss of national heritage. Throughout the past, the Government of the Lao PDR considered this monument area to be the most valuable cultural heritage resource of our nation which we could use to show the world about our ancestors' civilisation and intelligence. All government levels have decided to guide people to protect and maintain this monument in a reasonable condition.

For the convenience of restoration and maintenance of the monument, and with the aim of turning this heritage site into a tourist centre of Champasak province, as well as maintaining this monument for future generations so that they can visit and learn of their ancestors' culture, the Provincial Executive Board Committee has agreed to set up the rules for management and preservation as follows:

GROUP 1: PRESERVATION AREA

The preservation area is a large area based on the ancient construction plan of the Vat Phou Monument which covers the rice fields, forests, ponds and various hills, all of which are major components of the natural beauty of the Vat Phou heritage site.

At present, the archaeological remains of Vat Phou in the preservation area are the exterior and interior city walls. Inside this area there are various small and big hills which are believed to be the site of the ancient city.

This preservation area has many valuable artefacts and sculptures which are related to the Vat Phou Monument. Therefore, the government declared this area as a preservation area and Article 1 sets out the preservation area as follows:

Article 1: The preservation area starts from Phou Nak (Nak Mountain) and goes to the Mekong River bank. This covers the following villages: Nongsa, Nongho, Ban Phon, Phon Du, Phon Sao Ae, Thong Than, Nong Vian, Houay Sa Houa, Wat Luang Keo, North Phanom and South Phanon.



The boundary of this preservation area is set out as follows:

The West: From the top to the bottom of Phou Nak (Vat Phou Monument is situated on the slope of Phou Nak).

The East: From the right bank of the Mekong River, end of Vat Sisoumang boundary, to South Phanom village and ending at the ditch of the south exterior city wall.

The North: Along Kok Brook which flows down from Nak Mountain to the bamboo forest at Mr Sing Choum's rice field, where the course of Kok Brook flows by to the north, then along a straight line across the rice field to Phay canal, along Phay canal to the front of the airport and then across the rice field to the junction of Phay canal and Ta Beng canal and along the Nong Vian ditch to Mr Bone and Mr Khamtan's rice field and Mr Luane's rice field (each side of the ditch) and to Mr Khammy's rice field in the triangle along Sanaine ditch to Mr Teum's rice field and then directly to Mr May's rice field, continuing to Kha Lake to Sa Houa Brook and then crossing to Mr Phan and Mr Da's rice fields and then to the Samsa tree (the one on the north) after that crossing Sahoua Brook to Mr Peu's rice field and then crossing Toum Hill and the brush to Vat Sang Oa Temple, crossing Champasak Road to Mr Gnom's house and ending at the boundary of Vat Sisoumang.

The South: From the top of Nak Mountain down to Sane Brook and down to the bottom of Nak Mountain then along a straight line down to Nang Sida's hall, along the south of Nang Sida's hall then straight across to Khane canal and Sane Brook, across Mrs Keola and Mrs Nang's rice field down to Sane Brook and then to Sao Ae Road, then across the road to Done Ta Lat, then along the road turning back to I-Kam canal to the straight road and across the rice field, then directly to the exterior city wall (locally called "Middle Wall"). Near this wall is Mr Kai's rice field that connects to Mr Keoleuam's rice field along the Middle Wall to the Mekong River in the South Phanom village.



Article 2: Restrictions on the use of the preservation area.

Paragraph 1: No unauthorised excavation of gold, silver and artefacts for personal ownership and no selling of artefacts which have been found previously.

Paragraph 2: No excavation or destruction to various hills in the village and the forest such as: Sao Ae Hill, Soung Hill, Dead Elephant Hill, etc.

No destruction of the city wall and the ancient roads such as: Khou kang (Kang path), Khat path, Sanaine path, Nongvian path, and the path from Thao Tau Hall through Nang Sida Hall to Vat Phou Nonetoum, etc.

Paragraph 3: No construction of houses, rice mills, storage houses or other kinds of construction on the hills mentioned above. The constructions which existed previously are to be maintained in the same condition and they are not permitted to be expanded or be removed.

In special cases, if the preservation area is part of the expansion plan of an agricultural or irrigation project, then the head of those projects should ask for the permission to use the preservation area from the provincial government or related parties.

Paragraph 4: No moving or stealing sculptured stones or non-sculptured stones. If a stone contains ancient carving, then it is not allowed to be destroyed, used to sharpen knives or to be drawn on in any way that will change the image or the style of the stone.

Paragraph 5: Any rice field work, travelling, and other activities which do not contradict the restrictions mentioned in the 4 paragraphs above are allowed to be conducted as usual.



Article 3: Restrictions on the use of the forest

Paragraph 1: The forest on the slope of Nak Mountain is "the preservation forest"

Paragraph 2: No cutting down of trees to build houses. Only the cutting of small trees to clear the land and to maintain the forest in a good condition is permitted. If any organisations, soldiers or the villagers need the wood for building houses then they should send their requests through each government level for approval from the related parties.

Paragraph 3: No chopping or peeling off of the bark of a tree which will cause it to die when there is a natural disaster.

Paragraph 4: No burning of the trees in the preservation area, as it will cause fire in this area.

GROUP 2: PRESERVATION AREA.

The preservation area is the area where there are the remains of ancient constructions such as temples, halls, and palaces. In addition to these constructions, there are many ancient construction materials lying on the ground which were brought in from somewhere else or which were made at the construction site but had not been used in the construction, or if these materials had been fitted into the temples, as the centuries passed, these construction materials may have fallen down and been buried under the ground. To turn this area into a historical tourist attraction for both locals and foreigners, the preservation area is set out in the following articles:

Article 4: The preservation area covers 3 places as follow:

- ◆ Vat Phou Temple area
- ◆ Nang Sida Palace area
- ◆ Thao Tao Palace area



(1). **Vat Phou Temple area:** Vat Phou has its boundary as follows:

- The West: from the cliff at the back of the temple
- The East: from the foot of the east ditch of the big pond
- The North: Along a line from the cliff along a small brook and then along Nang Sida Palace down to the big pond to the boundary of the east.

(2). **Nang Sida Palace:** This area has a size of 150 x 102 square meters which covers Nang Sida Palace and the pond which makes the right angle on the northwest. Apart from that, there is Sao Sae road 12 meters - 110 meters which started from the east of this land area.

(3). **Thao Tao Palace:** Thao Tao Palace is surrounded by a stone wall enclosing an area of 30 x 25 square meters. The boundary of the Thao Tao Palace preservation area is 20 meters beyond the stone wall to the south and the boundary is 50 meters beyond the stone wall of the other three sides. Therefore, the preservation area of Thao Tao Palace is 150 x 95 square meters.

Article 5: Restrictions on the use of the preservation area

Paragraph 1: No destruction of the stone temples, palaces and ancient artefacts.

Paragraph 2: No removal or stealing of the sculpture, stone construction material and other valuable artefacts.

Paragraph 3: No excavation for gold and other artefacts.

Paragraph 4: No growing rice or cutting down trees.

Paragraph 5: No building houses and other kinds of construction in this area.

Paragraph 6: No buffaloes, cows, carts, cars and other vehicles allowed in this area.



Paragraph 7: For the Vat Phou area, no kind of animal or vehicle is allowed, especially along the Lotus Pole Road (from the platform to the steps of Chao Hall). Visitors' cars are allowed to drive along the upper road of Nong Nokkhao, the lower ditch of the brick pond and the road near the steps of Chao Hall only.

Article 6: Additional restriction

In a circle extending 100 meters beyond these three preservation areas mentioned above, no building of houses, rice mills, and other kinds of constructions are permitted. The existing houses, rice mills, etc. can be kept, but no expansion or removal is permitted (except in Nongsa village). For the celebration of the Vat Phou Festival, the department of information and culture at the district level should consult and ask for approval from the department of information and culture of the province. The provincial staff will then come to the site to monitor and enforce the restrictions of the preservation area in accordance with Article 6 and then they will allow the celebration of Vat Phou festival until the last day of the festival.

GROUP 3: PENALTY FOR PERSONS WHO ARE IN BREACH OF THE RESTRICTIONS.

Article 7: It is agreed to judge the person in breach of these restrictions as follows:

- ◆ To educate;
- ◆ To fine; and
- ◆ To jail (long term penalty).

(1). **Education case:** The person who is in breach of the following articles will be educated by the local government:

- Article 3, paragraph 3
- Article 5, paragraphs 4, 5, and 6



(2). **Fine case:** The person who is in breach of the following articles will be fined by the related organisation and local government:

- Article 2, paragraphs 1, 2, and 3.
- Article 3, paragraph 2
- Article 5, paragraph 2
- Article 6

In these two cases mentioned above, if this person still acts in breach of these articles then the local government organisation will present his case to the tribunal for judging.

(3). **Long term punishment case (jailed):** If the person who acts in breach of the following articles is considered to deserve a heavy penalty, then the local government will give the authority to the local tribunal to judge or to jail:

- Article 5, paragraphs 1, 2, and 3
- Article 3, paragraph 4
- Article 2, paragraph 4

Article 8: It is agreed to give authority to the related organisation and the local judge, the judge is to consider the penalty according to the suitable criminal law either to fine or to jail, as the judge considers suitable.

Article 9: This agreement is valid from the date of signature until it is cancelled by the new agreement of the related organisations. All the local government levels are to implement this decree.

Pakse. 11/10/1988

Provincial Executive Board Committee

Signature and Seal



PROVINCIAL DECREE



参考資料 No.5 ..文化・歴史・自然遺産保護に関する大統領令 (1997年6月20日)

PRESIDENTIAL DECREE

Presidential Decree on the Preservation of Cultural,
Historical and Natural Heritage. No. 03/PR (1997)

ລັດຖະບັນຍັດ

ລັດຖະບັນຍັດຂອງປະທານປະເທດແຫ່ງ ສປປ ລາວ
ກ່ຽວກັບການອະນຸລັກມໍລະດົກວັດທະນະທຳ, ປະຫວັດສາດ
ແລະ ທຳມະຊາດແຫ່ງຊາດ ເລກທີ 03/ປປ (1997)

PRESIDENTIAL DECREE

Table of Contents

CHAPTER I: GENERAL PROVISIONS

- Article 1. Objects of this Presidential Decree
- Article 2. National Heritage
- Article 3. Management of the National Heritage
- Article 4. Citizens' Obligations in the Preservation of the National Heritage

CHAPTER II: CATEGORIES OF NATIONAL HERITAGE

- Article 5. Classification of National Heritage
- Article 6. Immovable National Heritage
- Article 7. Movable National Heritage
- Article 8. Natural National Heritage

CHAPTER III: MANAGEMENT OF NATIONAL HERITAGE

- Article 9. National Heritage Management Authority
- Article 10. Authority and Duties of the National Heritage Management Agencies
- Article 11. Survey
- Article 12. Inventory of National Heritage
- Article 13. Removal
- Article 14. Maintenance
- Article 15. Prohibition of Destruction to National Heritage
- Article 16. Transactions of Artifacts of National Heritage Value
- Article 17. National Heritage Conservation Fund

CHAPTER IV: DISCOVERY AND SEARCH OF ARTIFACTS

- Article 18. Discovery of Artifacts
- Article 19. Excavation
- Article 20. Application for Artifact Excavation



- Article 21. Excavation Activities
- Article 22. Ownership of Discoveries
- Article 23. Removal of Artifacts from the of National Heritage
- Article 24. Cancellation of Excavation
- Article 25. Compensation of Incurred from Excavation
- Article 26. Authority of the Ministry of Information and Culture
- Article 27. Rehabilitation of Excavated Land

CHAPTER V: AWARDS AND SANCTIONS

- Article 28. Awards
- Article 29. Sanctions

CHAPTER VI: FINAL PROVISIONS

- Article 30. Implementation
- Article 31. Effective Date

LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
PEACE INDEPENDENCE DEMOCRACY UNITY PROSPERITY

No. 03/PR

Date :

DECREE OF THE PRESIDENT
OF THE LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
ON THE PRESERVATION OF CULTURAL, HISTORICAL AND NATURAL HERITAGE

- Pursuant to Article 17, 19 and 53.2 of the Constitution of the Lao PDR;
- Pursuant to the Forestry Law No. 01-96/NA of 11/10/1996;
- Pursuant to the Water and Water Resource Law No. 20-96/NA of 11/10/1996;
- Referring to the proposal of the National Assembly Standing Committee No. 19/NASC of 12 June 1997 on the preservation of the national cultural, historical and natural heritage.

The President of the Lao People's Democratic Republic decrees:

CHAPTER I: GENERAL PROVISIONS

Article 1. Objects of this Presidential Decree

The Presidential Decree on the Preservation of the Cultural, Historical and Cultural Heritage outlines the regulations and measures for the management, conservation, preservation and use of the national heritage, including for the upgrading of movable and immovable assets with historical or cultural or natural value into national heritage with the view of raising the spirit of patriotism, people's democracy, awareness and ownership of the fine national and ethnic cultures.

Article 2. National Heritage

National cultural, historical and natural heritage refers to the public, collective or personal assets holding cultural importance or historical importance and constituting evidence of the Lao country, ancestors and the general origin of the Lao people, including artifacts with historical artistic value and of over fifty (50) years old and natural sites represent the national heritage according to the definition provided by this Presidential Decree.



PRESIDENTIAL DECREE



Article 3. Management of the National Heritage

The Government promotes the management, conservation, preservation and development of the fine national and ethnic cultures, as well as the restoration of historical and archaeological sites representing national historical traces.

Article 4. Citizens' Obligations in the Preservation of the National Heritage

Persons and entities have the obligation to contribute to the management, conservation, preservation and restoration of the national heritage and the national cultural, artistic and cultural values.

CHAPTER II: CATEGORIES OF NATIONAL HERITAGE**Article 5. Classification of National Heritage**

The national cultural, historical and natural heritage is classified as follows :

- Immovable national heritage
- Movable national heritage
- Natural national heritage.

Article 6. Immovable National Heritage

The immovable national heritage is composed of artifacts, archaeological ruins, national historical ruins which may not be removed, such as the That Luang Stupa, Phakeo Temple, in Vientiane, Xiengthong Temple in Luang Prabang, the Plain of Jars and others.

Article 7. Movable National Heritage

Movable national heritage is composed of artifacts which may be removed, such as Buddha statues, bronze drums, spears, swords, bracelets, ancient pottery and others.



Article 8. Natural National Heritage

Natural national heritage is comprised of the beautiful environment, including natural sceneries occurring naturally, panoramas of natural sites and constructions, and architectures of high historical, artistic, scientific, technical, ethnological or environmental value and which should be preserved as national heritage, such as Khon Phapheng, Tat Kuangsy waterfalls, Ting Cave in Luang Prabang and others.

CHAPTER III: MANAGEMENT OF NATIONAL HERITAGE

Article 9. National Heritage Management Authority

The national heritage management authority is assigned to the Ministry of Information and Culture, the Province, Municipality and Special Zone Information and Culture Services, the District Information and Culture Offices and Village Administrative Authorities.

To ensure the efficient management, conservation and preservation of the national heritage, an agency may be established to provide consultations or opinions on such activities.

Article 10. Authority and Duties of the National Heritage Management Agencies

The national heritage management agencies have the following authority and duties:

1. Research guidelines, plans and regulations on the management, conservation and preservation of the national cultural, historical and natural heritage.
2. Establish the inventory of immovable, movable assets and natural sites constituting the national heritage or deserving to become a national heritage for their adoption as local, national or world heritage.
3. Bring solutions to issues and differences within their authority and duties.
4. Entertain relationship of cooperation on the management, conservation and preservation of the national heritage with foreign agencies;



5. Mobilize local and foreign sources of funds for use in the management, conservation and preservation of the national heritage:
6. Perform other authorities and duties prescribed by law.

Article 11. Survey

The survey of national heritage refers to the collation of technical information related to national heritage, such as locations, dimensions, weight, quantity, features and value as basis for the establishment of an inventory to take place every five years.

Article 12. Inventory of National Heritage

The inventory of the national heritage refers to the recording and listing of the immovable, movable assets, natural sites, historical and revolutionary ruins discovered on the surface of the land, under the ground or water within the territory of the Lao PDR taking place every 5 years.

Article 13. Removal

Any removal within the country or export of movable assets constituting a national heritage shall require the approval of the Ministry of Information and Culture and any import of cultural materials and artifacts shall similarly require approval from the Ministry of Information and Culture.

Article 14. Maintenance

Any maintenance, repair or modification to the features of a national heritage, whether immovable, movable or natural, shall require approval from the Ministry of Information and Culture.



Article 15. Prohibition of Destruction to National Heritage

Persons or entities are forbidden to damage artifacts, artistic construction sites, whether immovable, movable or natural, constituting the national heritage, whether by committing an willful offense or out of negligence.

No construction, restaurant or entertainment premise may be established within archaeological or natural sites of national heritage value, except when authorized by the Ministry of Information and Culture.

The use, maintenance or modification of immovable, movable assets or natural sites of national heritage value under the ownership of persons or entities and listed as national heritage shall require approval from and compliance with the regulations outlined by the Ministry of Information and Culture.

Article 16. Transactions of Artifacts of National Heritage Value

Persons or entities are forbidden to sell, purchase or transfer artifacts of national heritage value, except when specifically authorized by the Ministry of Information and Culture.

Persons or entities desiring to sell or transfer owned artifacts reserved as national heritage shall apply to the Ministry of Information and Culture. Such application shall be submitted to the Ministry of Information and Culture one month before the actual sale or transfer of ownership. After the sale or transfer, the Ministry of Information and Culture shall be notified within three months from the sale or transfer.

Where such artifacts are considered as holding important cultural significance, the State shall have the pre-emptive right to purchase them at an appropriate price.

The sale and purchase of ancient artifacts not listed as national heritage shall abide by the regulations specifically outlined by the Ministry of Information and Culture.

Article 17. National Heritage Conservation Fund

To ensure the efficient management, conservation and preservation of national heritage, the Government will establish a National Heritage Conservation Fund. The National Heritage Conservation Fund will be supplied by the national budget, contributions from persons, collective entities, social organizations, international organizations and other sources.



CHAPTER IV: DISCOVERY AND SEARCH OF ARTIFACTS**Article 18. Discovery of Artifacts**

Persons or entities discovering artifacts, archaeological sites, ancient historical sites of high historical, artistic and cultural, and archaeological value shall notify the relevant administrative authorities, District Information and Culture Office, or Province, Municipality and Special Zone Information and Culture Services, or the Ministry of Information and Culture within three days from such discovery.

Article 19. Excavation

Persons or entities are forbidden to exploit artifacts or objects of historical artistic, scientific, technical or archaeological value, whether within the land under their own or others' possession, without approval from the Ministry of Information and Culture.

The excavation of artifacts may take place only for the purpose of conducting scientific, historical research or for the conservation and preservation of such artifacts.

Article 20. Application for Artifacts Excavation

Persons or entities desiring to excavate or search for artifacts shall apply to the Ministry of Information and Culture and their application shall clearly indicate the site, importance and time-frame of excavation.

Where such excavation would take place within a land area under the possession of other persons, a certificate of consent from the relevant land owner shall be attached to the application.

Article 21. Excavation Activities

Excavation activities shall unfold in compliance with the conditions and measures outlined by the Ministry of Information and Culture. The licensee shall perform such excavation by himself and assume all responsibilities for such excavation.

During the conduct of excavation activities, the licensee shall report to the Ministry of Information and Culture on a permanent basis.

At their discovery, important artifacts or archaeological sites be well preserved and reported in full to the Ministry of Information and Culture at once for their examination, consideration and purchase.



At the completion of excavation activities, a full report of the results attached with other documents, such as drawings, pictures and records, shall be made.

Within three years from the excavation's completion, the scientific and historical results of such search shall be made public by the searcher. If the period of three years is exceeded and no publication has yet been made by the searcher, the Ministry of Information and Culture will be entitled to disclose the scientific and historical discoveries resulting from such search.

Article 22. Ownership of Discoveries

All immovable or movable assets discovered during any search are the ownership of the State. At the search's completion, the searcher shall hand over all discovered objects as well as all relevant documental information to the Ministry of Information and Culture.

Land owners may not own discovered objects, but will be appropriately compensated by the State.

Article 23. Removal of Artifacts from the List of National Heritage

Immovable or movable assets or natural sites constituting the national heritage, when their national archaeological, artistic, literature or historical value has devalued, may be removed from the list of national heritage by decision of the Government at the proposal of Minister of Information and Culture.

The removal of local heritage from the list will be decided by the Minister of Information and Culture at the proposal of Province, Municipality or Special Zone Information and Culture Services pursuant to coordination and unanimous agreement with the relevant local administrative authorities.

Article 24. Cancellation of Excavation

The Ministry of Information and Culture may cancel an excavation license and instruct the termination of excavation in any of the following cases:

1. The excavation or preservation of artifacts fail to abide by the technical standards or regulations outlined by the State.



23. The importance authorized for excavation bears utmost importance and necessitate that the excavation be performed by the Ministry of Information and Culture itself.

24. Upon receipt of a notice from the Ministry of Information and Culture for the termination of excavation activities, such activities shall be ceased at once.

Article 24. Compensation of Incurred from Excavation

Persons or entities whose license is canceled due to the failure to abide by outlined technical standards or regulations as provided under Article 24 hereabove may not claim any compensation or reimbursement of costs incurred in the excavation. Where the licensee's cancellation arises from the importance of the excavation premises, necessitating the Ministry of Information and Culture to perform the excavation itself, the excavating party will be reimbursed the costs incurred in the excavation but may not claim any compensation.

Article 25. Authority of the Ministry of Information and Culture

The Ministry of Information and Culture is entitled to organize and perform archaeological excavation throughout the territory of the Lao PDR.

Whenever excavation is conducted in a land area possessed by other persons or entities, such excavation may proceed only with the prior consent of the land owner and shall be completed within five years at the latest from its commencement.

Article 27. Rehabilitation of Excavated Land

Persons or entities, at the completion of archaeological excavation, shall rehabilitate the land to its original conditions such as by filling land, planting trees and others.



CHAPTER 10. VIOLATIONS AND SANCTIONS**Article 10.1. Rewards**

Persons who are efficient in managing, conserving and preserving the national cultural, historical and natural heritage will be awarded and benefit from other policies as outlined by the Government.

Article 10.2. Penalties

Persons who violate the provisions of this Presidential Decree will be warned, educated, fined or punished with penalties prescribed by law according to the nature of the offense.

CHAPTER 11. FINAL PROVISIONS**Article 11.1. Implementation**

The Government of the Lao People's Democratic Republic shall have the duty to implement this Presidential Decree.

Article 11.2. Effective Date

This Presidential Decree is effective from the day it is signed by the President of the Lao People's Democratic Republic.

All regulations inconsistent with this Presidential Decree are superseded.

Vientiane, June 20, 1997

President,

Signed and stamped:
Nouhak Phoumsavan.



**THE CHAMPASAK HERITAGE AND CULTURAL LANDSCAPE MANAGEMENT PLAN
WAS ADOPTED BY THE GOVERNMENT OF THE LAO PDR
ON 28 SEPTEMBER 1998**

The Plan was supervised by the National Inter-Ministerial Co-ordinating Committee for Vat Phou (NIMCC), Government of the Lao PDR

Siluer Bounkham	Minister of Information and Culture
Sisamuth Namkenthao	Vice Governor of Champasak Province
Boualiane Sikhaxay	Chief of Cabinet of the Ministry of Information and Culture
Heng Daovannary	Secretary General of the Laotian National Commission for UNESCO
<i>Toungso</i> Bounhom Chanthamat	Head of the NIMCC, Deputy Director, Department of Museums and Archaeology, Ministry of Information and Culture
Sipraseut Sensavath	Deputy Head of the NIMCC, Head of the Provincial Information and Culture Service of Champasak Province
Bounhieng Suksamlane	Deputy Head of the NIMCC, Head of Champasak District
Bounlab Keokalya	Deputy Head of the NIMCC, Head of Vat Phou Site Museum
Phouvong Sayarat	Institute of Science, Technology and Environment
Khom Dongchantha	National Tourism Authority
Sengdara Douangchantha	Ministry of Communication, Transport, Post and Construction
Kaseumy Thammavongsa	Ministry of Finance
Viengkeo Souksavatdy	Division for Conservation Archaeology, Ministry of Information and Culture
Phakhanxay Sikhaxay	Secretary of the NIMCC, Vat Phou Project Coordinator, Division of Preservation of Historical Monuments, Ministry of Information and Culture
Phouvong Sourya	Secretary of the NIMCC, Division of Preservation of Museums, Ministry of Information and Culture

The Plan was prepared by:

Phakhanxay Sikhaxay	Vat Phou National Project Coordinator, Ministry of Information and Culture
Phonphan Sichanthongthip	Cartographer, Ministry of Information and Culture
Phouvong Sourya	Computer Specialist, Ministry of Information and Culture
Thonglith Luangkhot	Draftsman, Ministry of Information and Culture
Samlane Luangaphay	Archaeologist, Ministry of Information and Culture
Sintheva Sayasane	Structural Engineer, Ministry of Information and Culture
Oudomsi Keosacsith	Vat Phou Site Management and Training Centre

Technical assistance provided by:

Mauro Cucarzi	Geophysicist, Director of Leric Foundation
Patrizia Zolese	Archaeologist, Project Chief Technical Advisor, Leric Foundation
Masao Nishimura	Anthropologist, International Project Coordinator
Carlo Rosa	Geophysicist, Leric Foundation
Oscar Nalesini	Archaeologist, Leric Foundation
Paola Conti	Geologist, Leric Foundation
Laura Giuliano	Art Historian, Leric Foundation
Fabio Parenti	Archaeologist, Leric Foundation
Konstantini Ermonhin	Geophysicist, Leric Foundation
Vladimir Glazunov	Geophysicist, Leric Foundation
Paul Box	GIS expert, UNESCO Consultant
Christopher Young	Cultural Heritage Management Expert, English Heritage
Frank Preusser	Structural Expert, Cultural Heritage Preservation Consultants
Pierre Pichard	Architect, Ecole Francaise d'Extreme-Orient (EFEO)
Francis Engelmann	UNESCO Consultant
Cliff Ogleby	Department of Geomatics, University of Melbourne
John Guy	Deputy Curator, Southeast Asian Department, Victoria and Albert Museum

Editorial assistance provided by:

Bounluen Boupha	Deputy Head, Division of External Relations, Ministry of Information and Culture
Christopher Young, Editor	Culture Heritage Management Expert, English Heritage
Beatrice Kaldun	UNESCO Consultant for Culture
Kumiko Kuribayashi	UNESCO Associate Expert
Jamie M. Donahoe	UNESCO Consultant for Culture

Preparation of the Plan was advised by Richard A. Engelhardt, UNESCO Regional Advisor for Culture in Asia and the Pacific.

Production assistance provided by:

David Keen	Publication Manager
Suki Dixon	Editorial
Visarut Yugala	Art Direction and Cover Design
Niphon Penplugsakul	Layout

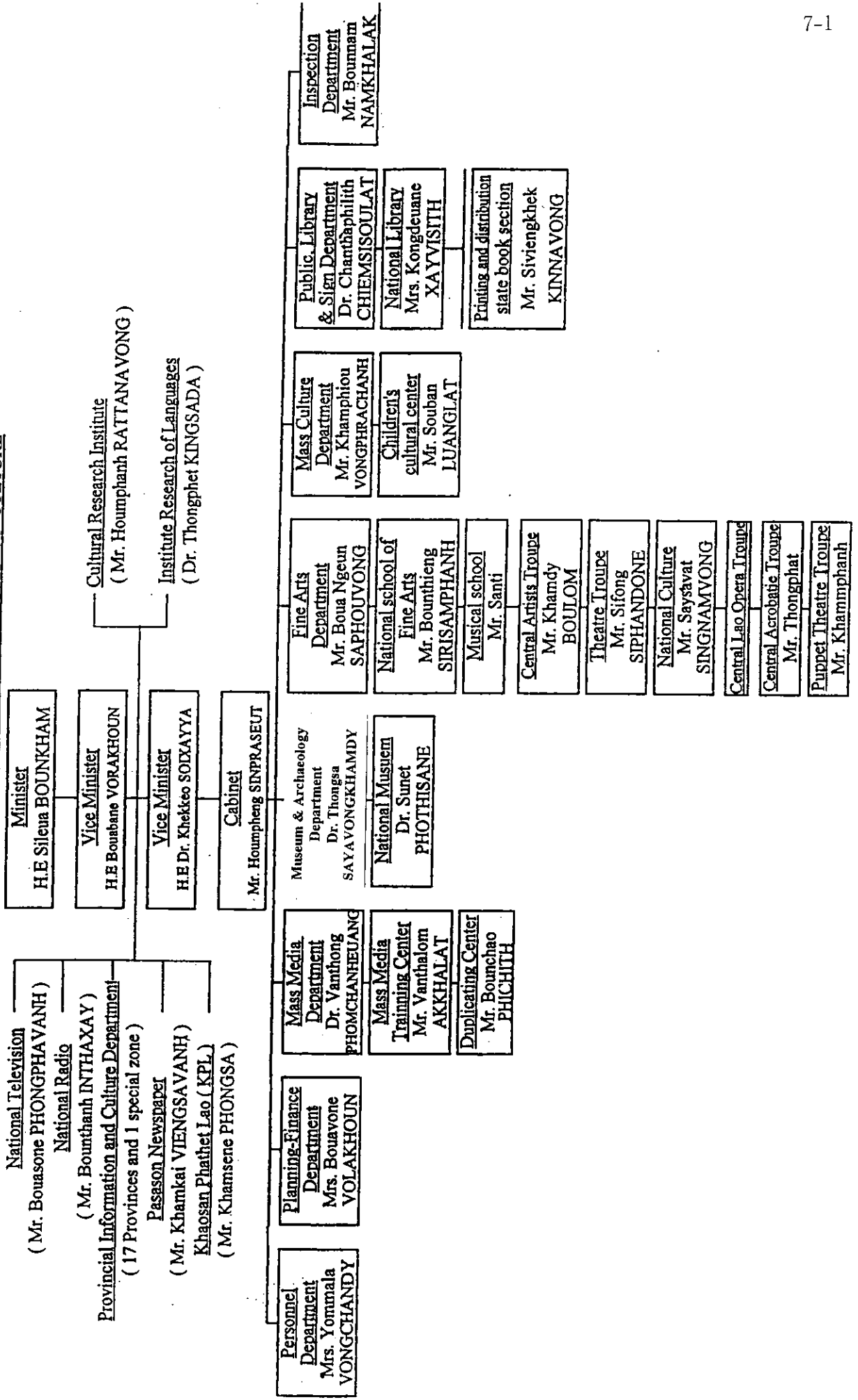
Photography courtesy of:

Phakhanxay Sikhaxay	Richard A Engelhardt
Oudomsi Keosaksit	Beatrice Kaldun
Thonglith Luongkhoth	R. Ian Lloyd
Dej Thumthong	Masao Nishimura
Nipon Arjpothi	Patrizia Zolese

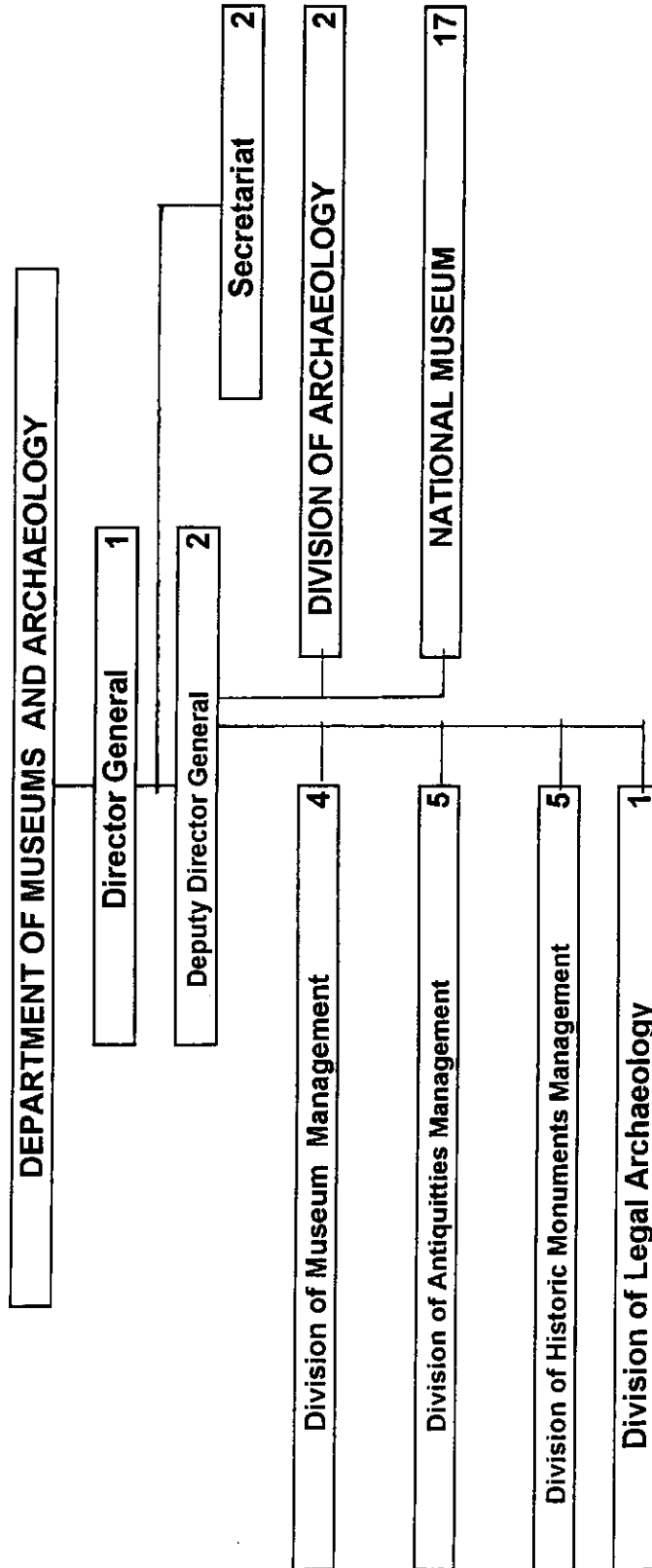
Financial support for this Management Plan was provided by:

The Government of Lao PDR	The Government of Italy
The Government of Japan	UNESCO

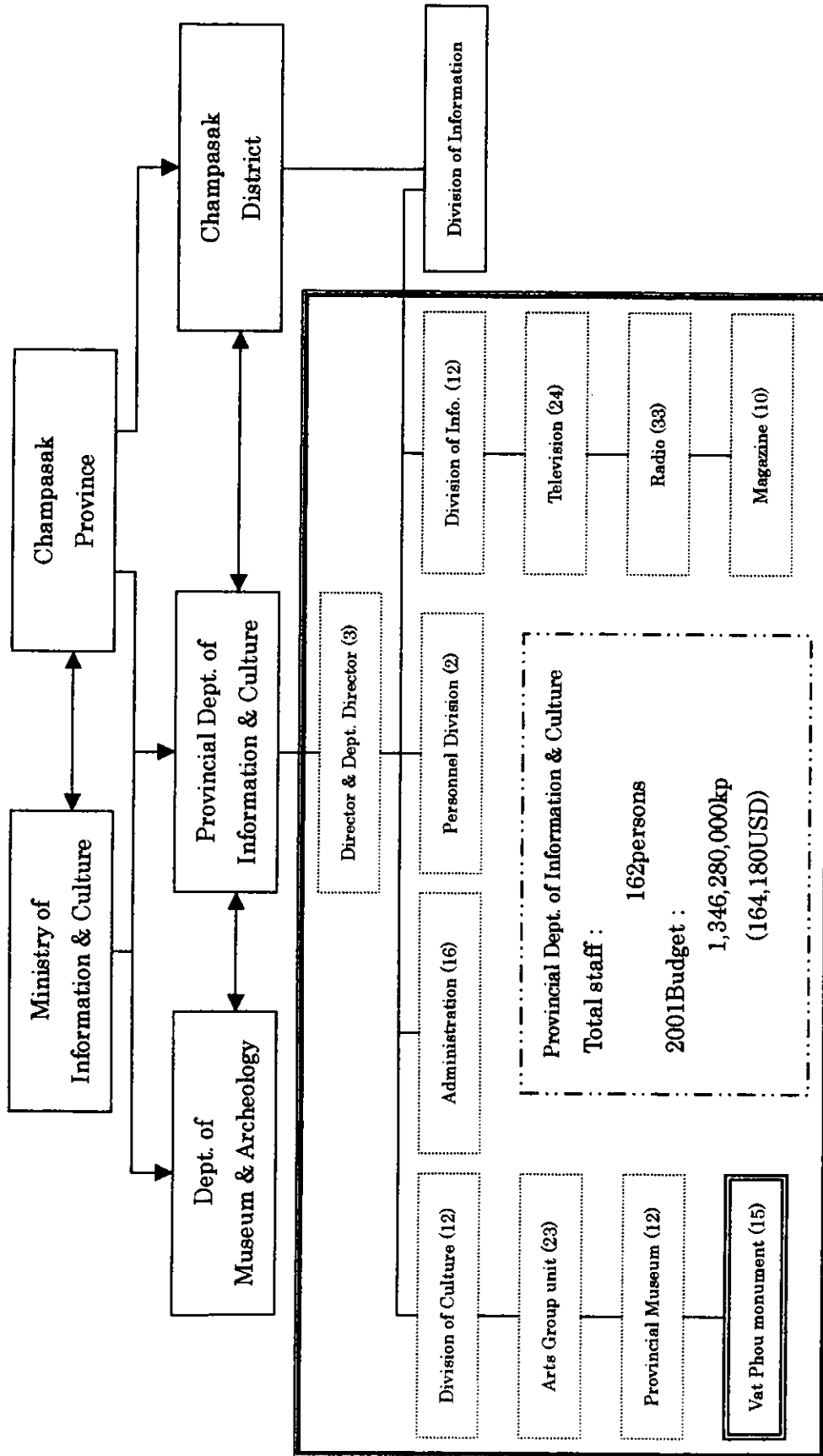
ORGANIZATION CHART OF MINISTRY OF INFORMATION AND CULTURE



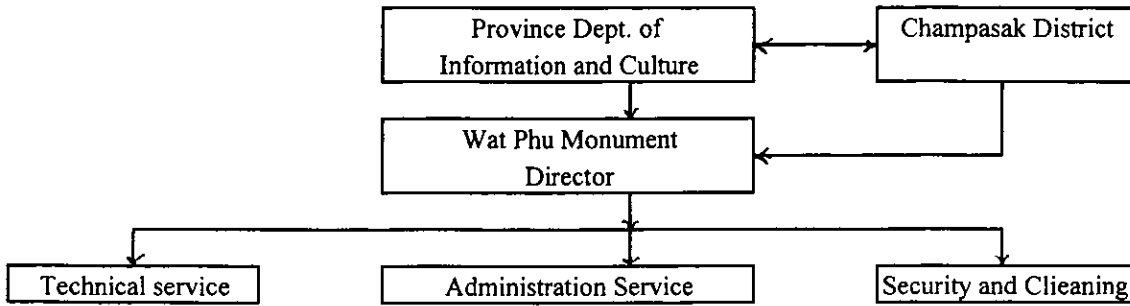
ORGANIZATION CHART OF DEPARTMENT OF MUSEUMS AND ARCHAEOLOGY



[Provincial Department of Information and Culture Organization Chart]

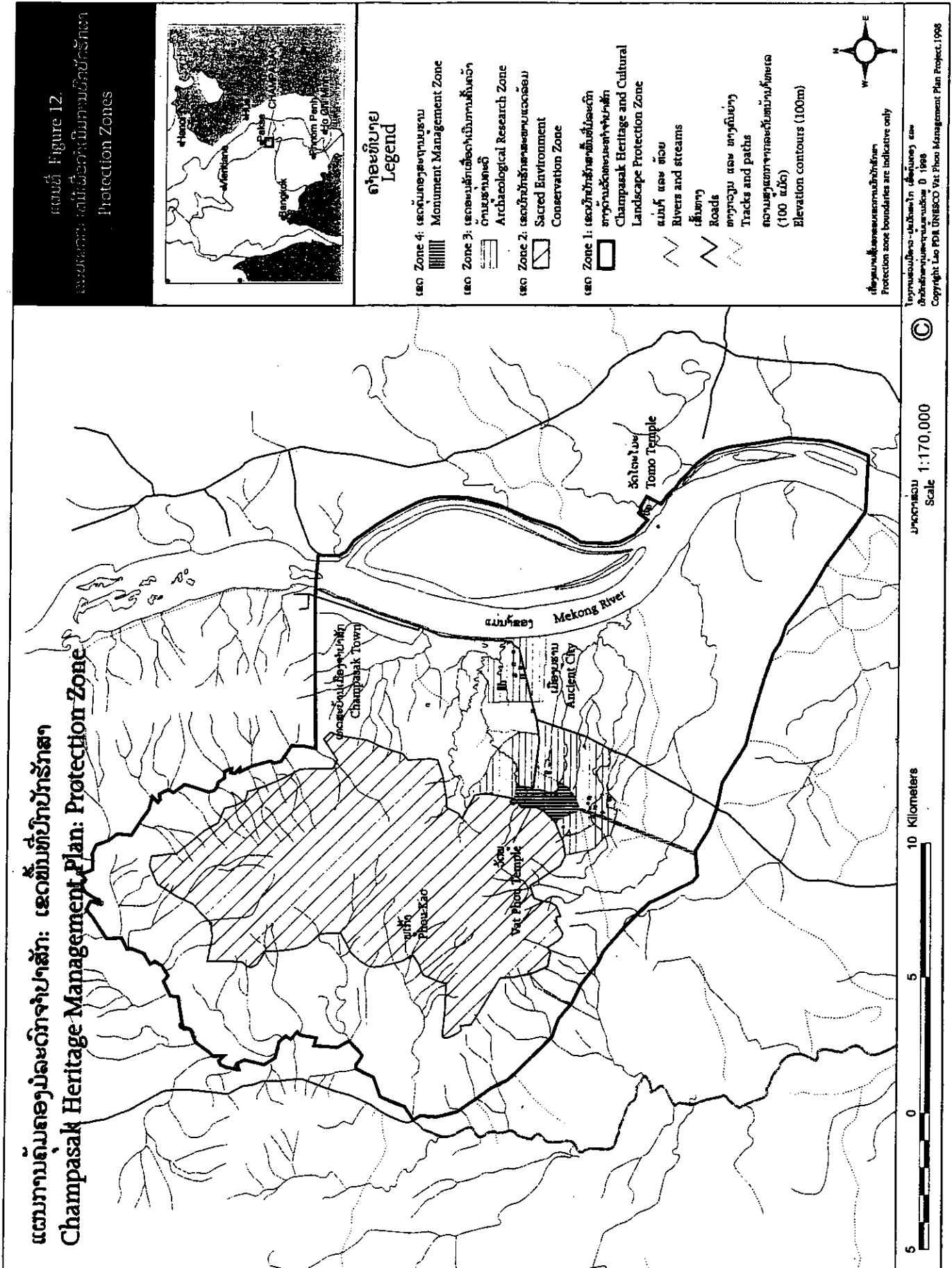


WAT PHU MONUMENTS ORGANIZATION CHART

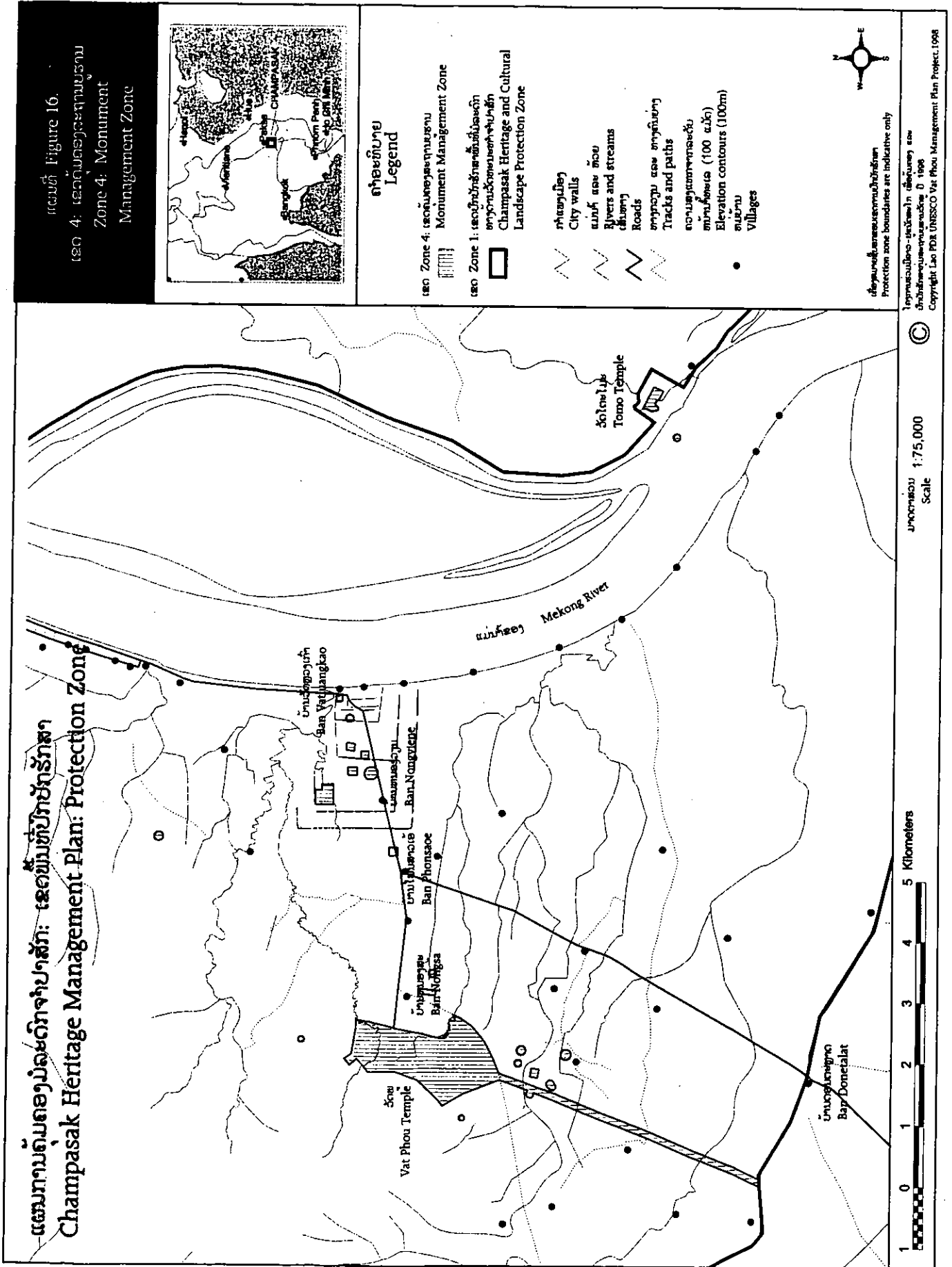


Note : Staff : 15 persons
3 Directors
12 Staffs

Budget 2001 : 18.000.000 Kips
1.689.200kips /month



FIGURES



Actual plan for management of the sites on 2001

No.	Description/Activities	responsible	Budget	duration													
				10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
I. Administration services				4 ps.													
1	repair the new sala	Ad. Staffs															
2	repair the old sala	Ad. Staffs															
3	selling visitor tickets	Ad. Staffs															
4	repairing anex field	Ad. Staffs															
5	repairing road to Hong Nang SIDA	Ad. Staffs															
6	repairing warning plate and signed place	Ad. Staffs															
II. Technical service				2 ps.													
1	control and monitoring the sites (Hong Nang SIDA, Thao Tao, Nong Saphang and Acienc walls	Technical. Staff															
2	Correcting the archaeological finds and register	Technical. Staff															
3	Participate the site studies Project from abroad	Technical. Staff															
III/ Security and Cleaning the sites				6 ps.													
1	Security	security Staffs															
2	Palace cleaning	Cleaning Staffs															
3	Hong Nang SIDA cleaning	Cleaning Staffs															
4	Clining wat phu areas	Cleaning Staffs															
				12 ps.													

One Director

Two Deputy Director

Total :

15 ps.

Year	Ministry	Province
1993		4,500,000 kip
1994		4,680,000 kip
1995		4,680,000 kip
1996		4,680,000 kip
1997		4,680,000 kip
1998	10,000,000 kip	4,680,000 kip
1999	10,000,000 kip	6,000,000 kip
2000		650,500,000 kip
86937 12		
In March 2000. US\$1=7,500 kip		

In addition, the Government of the Lao PDR has been able to obtain funding for a number of special projects from UNESCO and other sources.

Year	Donor	Nature of project	Budget
1989 - 1991	UNDP-UNESCO	site protection/ restoration plan	US\$221,000
1991	France	research/excavation	US\$ 60,000
	Italy	research	US\$ 24,000
1992	France	research/excavation	US\$ 70,000
	Italy	research	US\$ 24,000
1993	France	research/excavation	US\$ 65,000
	Italy	research	US\$ 46,000
1994	France	research/excavation	US\$ 65,000
	Italy	research/mapping	US\$ 46,000
1995	France	research/excavation	US\$ 60,000
	Italy	research/mapping	US\$ 46,000
1996 - 1997	UNESCO (Japan Funds-in-Trust)	research/management plan/conservation	US\$379,000
1996 - 1998	UNESCO (Japan Funds-in-Trust)	research/management plan/capacity building	US\$287,000
1996	France	research/excavation	US\$ 50,000
1997	France	research/excavation	US\$ 44,000
1999	France	research/excavation	US\$ 44,000
	Italy	research/training	US\$ 25,000
	UNESCO World Heritage Fund Waseda University, Japan	preparatory assistance	US\$ 13,000
2000	Italy	research/training	US\$ 15,000
	Waseda University, Japan	research/training	US\$ 20,000
	Japan	research/training	US\$ 15,000

当国情文省フシ13-1
提出された機材リス
(保有分)

Inventory of the Equipments and Supplies in Storeroom

#	Description	Model	# Unit	Addition	Note
	<u>Storeroom I :</u>				
1	<u>ELMO</u> : Overhead Projector Standard Power Cable	Code 4702 HP-A380 ZOOM	1	Good	
2	<u>ELMO</u> : Writing Roll Attachment for Overhead Projector	Code 4555. A4	1	v	
3	<u>ELMO</u> : Omnigraphic Projection Lens Objectif de Projection	Code 4179-2	0 1	v	
4	The " Original Equipment " Projector Lamps for Movie and Projectors		3	v	
5	<u>ELMO</u> : Omnigraphic and Omnigraphic Power Cable	Code 253E	1 1	v v	Cable
6	<u>ELMO Remote Control</u> Commande a Distance for Omnigraphic	Code 4186, RC-250	1	v	
7	<u>Round Slide Tray</u>	80 Slides	1	v	
8	ELMO 35MM for Slide Projector		1	v	Book
9	<u>Video Cassette Player</u> Multi System	SR NV-SR30M	1	v	
10	HandReview Video Cassette Panasonic Super Drive		1	v	
11	<u>Remote Control</u> Panasonic for Video Cassette Player	EUR 571451	1	v	
11	Double Cable Video Cassette Player to TV		1	v	
12	User's Manual Panasonic for Video Cassette Player	Nv-SR30AM	1	v	Book
12	<u>Color TV Panasonic</u>	TC-25D10AH	1	v	
13	<u>Remote Control</u> Panasonic for Color TV		1	v	
14	Manual User's Panasonic for Video Cassette Player		1	v	Book
15	<u>Camera</u> " MINOLTA "	98609018	1	v	
16	Camera Tripot " Velbon "	Light 450	1	v	
17	<u>Cassette Recorder</u> " AIWA "	TP-460	1	v	
18	Ushikata Tracon Surveying Compass	Level Tracon LS-25	1	v	
19	Ushikata Tripod	No. 33	1	v	
20	Drawing Equipment		1	v	
21	Drawing Table		1	v	
22	Drawing Table Tripot		1	v	
23	Topocon Digital Theodolite	DT-103	2	v	
24	Topocon Instruction Manual Digital Theodolite	DT-(102,103,104) DT-104P	2	v	Book
25	Drawing Tripot Digital Theodolite		2	v	
26	KAWA Electric Fan		1	v	
27	<u>Scout Master GPS</u> ဟဲဂဲဂဲ		1	v	
	Scouter GPS User's Manual		1	v	Book
	GPS Cable to Monitor		1	v	Cable
28	Drawing Comb		3	v	
29	Breast Drill စမာဂဲဂဲ	Diamond Brand	1	v	
30	Twist Bit (Twist Drill) ဗဲဂဲဂဲ		3	v	
31	<u>Measuring Tape</u> : Super Fiber Glass Tape	META 50m	1	v	
32	<u>Measuring Tape</u> : 5m/16FT	YETI 5m			
33	<u>Steel Tape Rule</u> :	ECHO 3m			
34	<u>Measuring Tape</u> : Elson 50m Tape	<<30-R>>	2	v	
35	Measuring Tape : Fiber Glass 50m/165 Ft	STANDLEY DRAGON 34-234	1	v	

36	Measuring Tape : Fiber Glass 20m/66Ft	STANDLEY DRGAON 34-232	1 v	
37	Spincer		1 v	
38	<u>Measuring Tape</u> : Power Tape	META 5m	2 v	
39	Survey Wooden Staff		2 v	
40	Grass Fiber Staff	KANASASHI	1 v	
41	Philips Lighting	TDL 30/54, 9280 485 05469		
42	Chrono Office Tone	No 120F	5 v	
43	Electric Pot		1 v	
44	Rotring Economy Set		1 v	
45	Chemical for Kill Tree PATO		4 v	
46	Scissors	No 05	1 v	
47	Duracell Alkline Battery	Size D	18 twin v	
48	Axe		6 v	
49	Trowel		8 v	
50	Polaroid 363 autofocus		1 v	
	Storeroom 2 :			
51	Plastic pail		60 v	
52	Blade		1 v	
53	Buttery GS		1 v	
54	Car TOYOTA	4W	1 v	
55	Tyre		4 v	
56	Motocycle TENA	110 CC	2 v	
57	OAowfra	3m, 4m	2 v	

Lao-Unesco Wat Phu Project
 Champasak, 17 / 10/1998
 Phouong SOURYA
 GIS Computer

List of furniture
of the Site Management & Excellence Centre

#	Description	Size / m			Unit	Condition
		<i>Length</i>	<i>High</i>	<i>Wide</i>		
1	Big table	2.5	0.8	1.2	5	good
2	Big table by 2 drawers	2.03	0.78	0.8	1	v
3	Small table by 1 drawer	1.23	0.74	0.73	9	v
4	Dest by 3 drawers	1.14	0.78	0.64	3	v
5	Small table of copy machine	0.8	0.65	0.6	1	v
6	Small shelves	1.15	0.4	0.4	5	v
7	Middle shelves	1.5	2	0.4	4	v
8	Big shelves	1.7	3	0.4	2	v
9	Chairs	0.4	0.92	0.3	21	v
10	White board	2.74	1.27		1	v
11	Drawing chair				1	v
12	Drawing table	0.66			1	v
13	Simple bed				5	v

Lao-Unesco Wat Phu Project
Champasak, 17/10/98
Phouvong SOURYA

List of the Computer and Equipments I

#	Description	Model	Unit	Addition	Note
1	Monitor : ATEC/Standard Power Cable	G566	1	Good	
	1 Cable to CPU				
	2 User's Manual Monitor		1	v	Book
2	Stylish Mouse /Standard Cable to CPU	EW4E-S3101	1	v	
3	Keyboard : ATEC/Standard Cable to CPU	RT6856 TWTH	1	v	
	1 Epson Driver Disk for Color Printers	Ver.2.OAE	1	v	Flyp Disk
	2 Epson Color Ink Jet Printer Stylus Pro XL+, Setting Up for PC	Stylus Pro XL+,	1	v	Book
4	Epson Color Image Scanner	GT-8500	1	v	
	1 Standard Power Cable		1	v	
	2 Scanner Printer (to Zip Drive - to CPU)				
	3 Epson Color Image Scanner / User's Guide	GT-8500	1	v	Book
	4 Epson Scanner Utility Program Disk 1 and 2	Version.2.0aE	2	v	Flyp Disk
5	UPS / Standard Power Cable	1200TA	1	v	
	1 User's Manual	UPS-1200TA / 1500TA	1	v	Book
6	Automatic Voltage Stabilizer		1	v	
	1 Standard Power Cable				
7	Digitizing Table : (SummaSketch III Professional)		1	v	
	1 Digitizing Cable		1	v	
	2 Digitizing Mouse		1	v	
	3 Summa / Software Drivers & Utilities for Windows 95 (Version 2.1)		1	v	Flyp Disk
	4 Summa / Software Drivers & Utilities for Windows 3.1 (Version 1.4)		1	v	Flyp Disk
	5 Summa Sketch Drivers/Utilities	Part No 64-5011-013	1	v	Flyp Disk
	6 Summa Sket III Series, User's Manual		1	v	Book
	7 Summagraphic, Super Menu Lite	R 10/ 11/ 12/ 12W R 13 / R 13W	1	v	Flyp Disk
	8 Super Menu Lite by Summagraphics	AutoCAD R12 Template	1	v	Paper
8	MediPro Power Tool (Expert Color) Windows 3.1x/ Windows 95 Install Window/ Windws 95	S3 TRIO-A	1	v	Flyp Disk
9	Driver Disk Expert Color S3/XING NATIVE-MPE		1	v	Flyp Disk
10	Driver Disk Expert Color Dos/Windows NT	DSV3365 S3 NGA CARD	1	v	Flyp Disk
11	ExpertColor Video Acceleration	DSV 3365	1	v	Book
12	CPU : ATEC		1	v	
13	Plotter :	Roland DXY-1150	1	v	
	1 Flash/Net for Printer	AS-248R, EA-100	2	v	
	2 Flash/Net for PC LPT Port	AS-248T	1	v	
	3 Status EA-100	EA-100	1	v	
	4 Flash/Net Device (AS-248T, AS-248R, EA-100)		2	v	Book
	5 Standard Power Cable	DCP-303A			
	6 Plotter Roland Usre's Manual	DXY 1150/ 1250/ 1350	1	v	
	7 Plotter Driver for Window 95		1	v	Diskette
	8 Plotter Driver for Window 3.1		1	v	Diskette
14	CD-Rom Device Driver		1	v	Diskette
15	ADAPTEC Version 4.00e for Windows Setup Diskette Windows 95	EZ-SCSILITE	1	v	Diskette
17	Adaptec for Windows	EZ-SCSI 4.0	1	v	Book
18	Version 1.70 / Part No AS/ 2438/ WARE	SN: FDSK-2000-170	1	v	Diskette
19	Version 1.70 / Part No AS/ 2438/ WARE	SN: FDSK-3000-170	1	v	Diskette
20	OP Limited Edition		1	v	CD
21	Sound Boss , Driver and Activities	SB-3201	1	v	CD
22	Sound Boss , Full Feature Sound Card		1	v	Book
23	Adobe Photoshop LE		1	v	CD
24	Adobe Photoshop LE for Bundles Only		1	v	Book
25	IOMEGA Zip Drive 100MB, Parallel, External		1	v	

	1	Iomega Zip : AC Adapter	48DTR-5-1000EP			
	2	Zip Parallel Port User's Guide		1	v	Paper
	3	Zip Parallel Port Installation Guide		1	v	Paper
26		<i>PCI PENTIUM Mainboard</i>	TR 8	1	v	Paper
27		<i>CD-ROM Drive User's Guide</i>	10x/ 8x - Speed	1	v	Paper
28		<i>Photocopy Machine : RICOH</i>	FT 4215	1	v	
	1	RICOH Operating Instructure	FT 4215	1	v	Book
29		<i>Cassette Recorder : AIWA</i>	TP-460	1	v	
30		<i>Introducing Microsoft Windows 95</i>		1	v	Book
31		<i>AC Adapter Sino-American</i>	R3W0112-200G	1	v	

Lao-Unesco Wat Phu Project
 Champasak, 18/10/1998
 Phouvong SOURYA

List of the Computer Equipments II

#	Description	Model	#Unit	Addition	Note
				by Ke	
1	Monitor - ATEC / Standard Power Cable to CPU	GT50PU		good	
2	Standard Cable to CPU		1	v	
3	User's Manual Monitor		1	v	
2	Keyboard - ATEC / Standard Cable to CPU	RT636 ATTEH			
3	Snake Mouse - ATEC / Standard Cable to CPU	EW410M-S2102			
2	Mouse GENIUS / Standard Cable to CPU	15U10M215			
4	CPU - ATEC / Standard Power Cable				
2	ATEC PC User's Manual		1		Book
3	User's Manual MSI ATX5 Mainboard	MS-5158	1	v	Book
5	IOMEGA Zip Drive 100MB	DDX-210S2			
1	Standard Power Cable Zip Drive				Cable
2	Iomega Zip : AC Adapter	48DTR-5-1000EP	1	v	
3	Zip Parallel Port User's Guide		1	v	Paper
4	Zip Parallel Port Install-Guide		1	v	Paper
5	Zip c Windows/DOS	EN135704	1	v	Floppy Disk
	DOS/WINDOWS 5.00, WIN 95 5.00				
	IOMEGA Zip Drive		7	v	Diskette Zip
6	Printer - EPSON Stylus Color 600	ES574			
1	Standard Power Cable Printer		1		Cable
2	Cable Printer to CPU		1	v	Cable
3	EPSON Stylus Color 600				
	Windows Thai System 3.1 / 95, Setup disk # 1, # 2		2	v	Floppy Disk
4	Printer Driver for EPSON Stylus COLOR	Rev. 2.2dE	2	v	Floppy Disk
	Setup Disk # 1, # 2				
5	EPSON Stylus Color 600		1	v	Book
6	EPSON Stylus Color 600 Ink Jet Printer User's Guide		1	v	Book
7	Printer - HP LaserJet Packard LaserJet 6L	FC290A2			
1	Standard Power Cable				
2	Cable Printer to CPU		1	v	
3	HP Laser Jet 6L Printer User's Manual		1	v	Book
4	HP Laser Jet 6L Printing Software		3	v	Floppy Disk
	Microsoft Windows Drive 1, 2, 3				
5	HP Laser Jet / Drivers for Window NT.4.0		1	v	Floppy Disk
	and Windows NT.3.51				
6	HP Laser Jet 6L / DOS Utilities Disk 1		1	v	Floppy Disk
7	Windows NT 3.51 / 4.0 Printer Software User's Guide		1	v	Book
8	Driver Run " MSSETUP " Power Color		1	v	CD
9	EPSON Driver Disk for Color Printers	Ver.2.0AE	1	v	Floppy Disk
10	Black Ink Cartridge	952-BK, S020034	7	v	
11	Color Ink Cartridge	S020066	7	v	
12	CD ROM ACER 24X, Ver 2.21		1	v	Floppy Disk
	FAX/MODEM PCTEL MMX, VER.2.16				
13	M.S. DOS 6.22 (I, II, III)	Copy	3	v	Floppy Disk

Lao-Unesco Wat Phu Project
 Champasak, 18/10/98
 Phouyong SOURYA

List of the Equipments

#	Description	Model	# Unit	Add	Note
1	Epson Printer Stylus Color 1520	P892A	1	Good	
1	EPSON Plot! Printing utility	Rev. 1.OML	5		Floppy Disk
	Windows 3.1x, Windows 95, Windows NT 3.51, Windows 4.0 Setup Disk # 1, 2, 3, 4, 5			v	
2	EPSON Printer Driver for EPSON Stylus™ COLOR 1520 Setup Disk # 1, 2	Rev. 2.2aE	2		Floppy Disk
3	Printer Software for EPSON Stylus™ COLOR 1520 Windows Driver Rev. 2.2aE Macintosh Driver Rev. 3.0aE			v	CD
4	EPSON Plot! Printing utility Installation Guide		1	v	Book
5	Epson Stylus™ Color 1520 Ink Jet Printer User's Guide		1	v	Book
6	EPSON Color Ink Jet Printer Color Guide		1	v	Book
7	Ordinary A4 paper (2reams of 500 sheets)		2	v	
8	Epson paper A2-360 dpi-S041078		2 packs of 30 shts	v	
9	Epson paper A3-360 dpi-S041045		3 packs of 100 shts	v	
10	Epson paper A4-360 dpi-S041059		1 packs of 100 shts	v	
11	Epson paper A4-720 dpi-S041059		1 packs of 100 shts	v	
2	Fax Machine Panasonic	KX-F230	1	v	
1	Terminal paper		3 roll of 30m	v	
3	Yamaha CD Writer (6X4,SCSI) External (6X4,SCSI)		1	v	
1	Blank CD-R Maxell disks.		10	v	
4	Slide scanner CanonScan 2700F (for diapositives and negatives 35mm-films.) with cable		1	v	
5	Hard Disk 4.3 GB.		1 Pce		
6	16 MB RAM		2 Pce	v	
7	Arcview 3.0a for Windows Internation		2 Sets	v	
1	(s/n: 752171178176, 75217117844)				
2	CD-ROM Arcview for Windows				
3	CD-ROM Data and Maps				
4	PC Hardware Key (AVG 0915, 0916)				
5	Arcview the GIS for Everyone				

6	Avenue Customisation and Application Development for Arc View				
7	Arcview GIS Installation Guide for windows				
8	ESRI International Licence Agreement				

Lao-Unesco Wat Phu Project
 Champasak, 18/10/1998
 Phouvong SOURYA

ワットプー遺跡来訪者数 (1991~2000年)

1991	ラオス人民民主共和国	2,289
	外国人	757
	合計	3,046
1992	ラオス人民民主共和国	2,717
	外国人	1,195
	合計	3,912
1993	ラオス人民民主共和国	2,159
	外国人	1,812
	合計	3,971
1994	ラオス人民民主共和国	2,551
	外国人	2,206
	合計	4,757
1995	ラオス人民民主共和国	3,092
	外国人	3,513
	合計	6,605
1996	ラオス人民民主共和国	2,635
	外国人	3,723
	合計	6,358
1997	ラオス人民民主共和国	2,282
	外国人	4,150
	合計	6,432
1998	ラオス人民民主共和国	3,662
	外国人	3,970
	合計	7,632
1999	ラオス人民民主共和国	6,673
	外国人	7,322
	合計	13,995
2000	ラオス人民民主共和国	14,251
	外国人	8,634
	合計	22,885

Department of Museum and Archaeology

Division of Archaeology

No.	Name	Training / Seminar / Work shop abroad			Countries
		Year	Subject	Duration	
1	Mr. Viengkeo				THAILAND
					VIETNAM
					AMERICA
		1998	Asean work shop on Conservation and Restoration Monument and Site for young professional in Borobudur	2 weeks	INDONESIA
		1999	Workshop on international Colloquim on archaeology in Southeast Asia in the 3th Millennium	7 days	MALAYSIA
2	Mr. Samlane	1997	Training Course on Conservation and Restoration for the Archaeology Object	1 month	THAILAND
		1998	Asean work shop on Conservation and Restoration Monument and Site for young professional in Borobudur	2 weeks	INDONESIA
		1999	Workshop on international Colloquim on archaeology in Southeast Asia in the 3th Millennium	7 days	MALAYSIA
3	Mr. Sengpheth	1997	Training Course on Conservation and Restoration for the Archaeology Object	1 month	THAILAND
		1998	Training Course on Conservation and Restoration for the Archaeology Object	1 month	THAILAND
4	Mr. Viengphone		New Staff		
5	Mr. Thonglith	1997	Training Course on Conservation and Restoration for the Archaeology Object Now he studying PHD. In VIETNAM	1 month	THAILAND

Division of Museum Management

No.	Name	Training / Seminar / Work shop abroad			Countries
		Year	Subject	Duration	
1	Mr. Vongmany				
2	Mr. Phengsavanh				
3	Mr. Phouvang				
4	Mr. Somphonh	1997	Training Course on Conservation and Restoration for the Archaeology Object	1 month	THAILAND

Division of Historic Monument and Sites Management

No.	Name	Training / Seminar / Work shop abroad			Countries
		Year	Subject	Duration	
1	Ms. Sourapry	1995	Training Course on Cultural Tourisms	1 month	THAILAND
		1995	Training Course on Restoration of Mural Painting	1 month	THAILAND
2	Mr. Phakhansay	2000	Training Course on Survey and Restoration of Historic Monuments	1 month	JAPAN
					JAPAN
		2000			ITALY
					ITALY
					THAILAND
					THAILAND
3	Mr. Phomphanh	1997	Training Course on Conservation and Restoration for the Archaeology Object	1 month	THAILAND
4	Mr. Sintheva	2000		1 month	THAILAND
5	Mr. Phothong	1995	Training Course on Restoration of Mural Painting	1 month	THAILAND

Division of Antiquities

No.	Name	Training / Seminar / Work shop abroad			Countries
		Year	Subject	Duration	
1	Mr. Bounhoueng	1995	Work shop on management the world Heritage		SINGAPOR
		1995	Training course Ceramic		THAILAND
		1997	Training course on management the world Heritage		THAILAND
		1996	Training course Burial Asset Cultural Technology		JAPAN
		1997	Training course conservation and the Restoration Painting wall	5 months	THAILAND
		1998	Training course Xample of the Soil ceramic		THAILAND
2	Ms. Phimmaseng	1994	Training course about Textile	7 days	THAILAND
		1998	Training course Xample of the Soil ceramic		THAILAND
		1996	Study tour on the conservation of Mural Painting	2 weeks	THAILAND
		2000	Training course about Textile	7 days	THAILAND

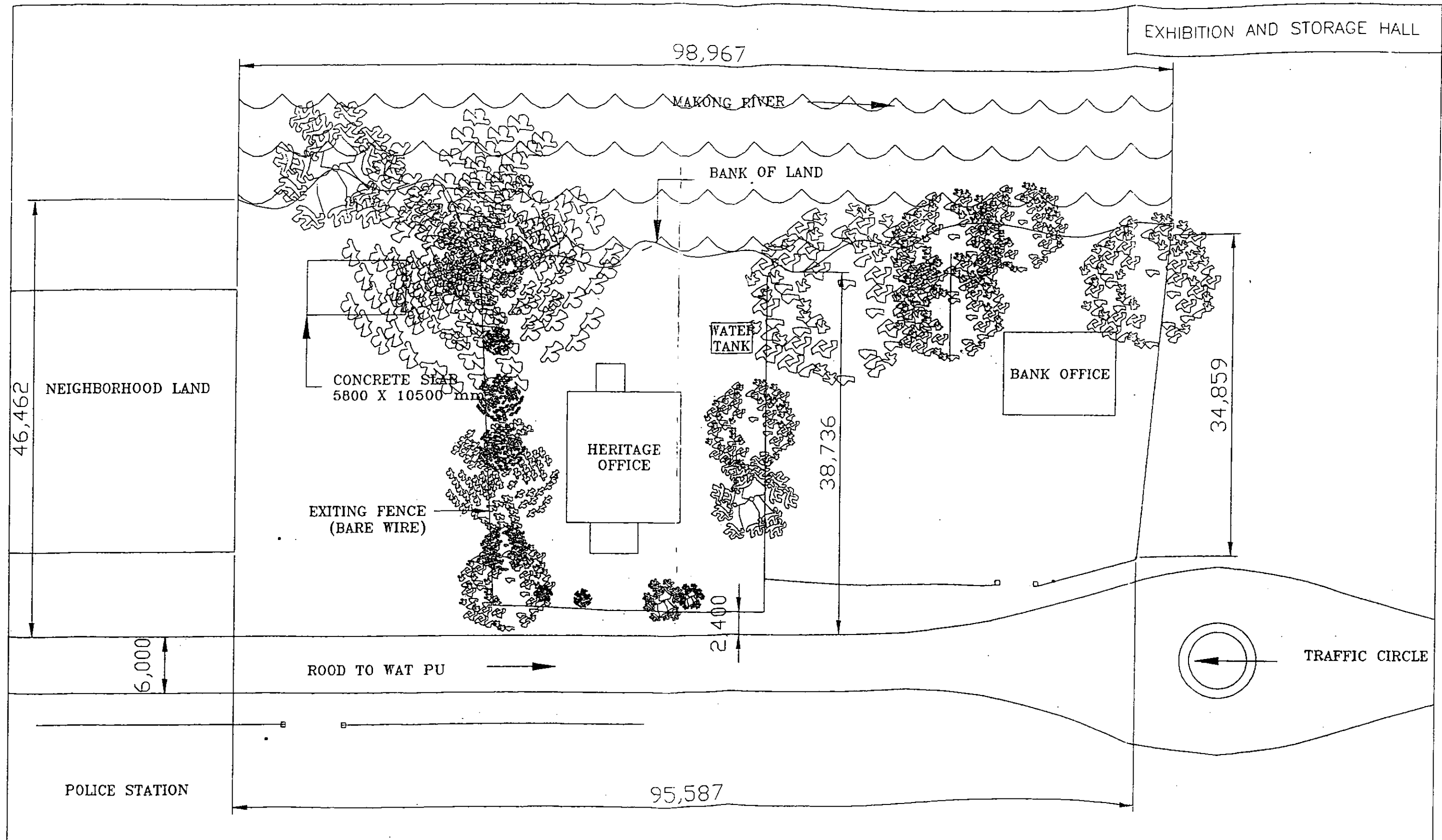
No.	Name & Surname	Training/Seminar abroad			Countries
		Year	Subject	Duration	
1	Mr. Bounlap KEOKANGNA	1983	Monument conservation	3 months	SZECHOSLOVACKIA
		1988	Study on Ancient sites	12 days	CAMBODIA
		1990	cultural personnel seminar	12 days	JAPAN
		1991	Museology training	6 months	INDIA
		1996	Museology training	3 months	FRANCE
		1996	study tour	12 days	VIETNAM
		1999	Seminar on S.A Ind. Archaeology	7 days	THAILAND
2	Mr. Sisavay AKKHAVONG	1971	Pedagogique	1 month	FRANCE
		1972	Mathematique	3 months	
		1998	Technic of teaching foreign language	15 days	VIETNAM
		1998	Exchange Education	15 days	THAILAND
3	Mr. Odomsy KEOSAKSITH	1996	Museology training	6 months	INDIA
		1998	Study English	3 months	INDIA
			Seminar on S.A Ind. Archaeology	7 days	THAILAND
4	Mr. Amphonh	1999	Seminar on Anc. Architecture	1 month	THAILAND

【ラオス人民民主共和国業者リスト (邦人)】

法人名	グループ	備考
伊藤忠商事	商社	
山朋インタナショナル	商社	
C&K	商社	
住友商事	商社	
トーザイ (株)	商社	
日商岩井 (株)	商社	
野村貿易 (株)	商社	
丸紅	商社	
三井物産 (株)	商社	
大林組 (株)	建設	
オリエンタルコンサルタンツ (株)	建設	
クボタ建設 (株)	建設	
清水建設 (株)	建設	
日本工営 (株)	建設	
間組 (株)	建設	
フジタ (株)	建設	
PROMAJUN	建設	

【ラオス人民民主共和国業者リスト (ラオス：チャンパサック地域)】

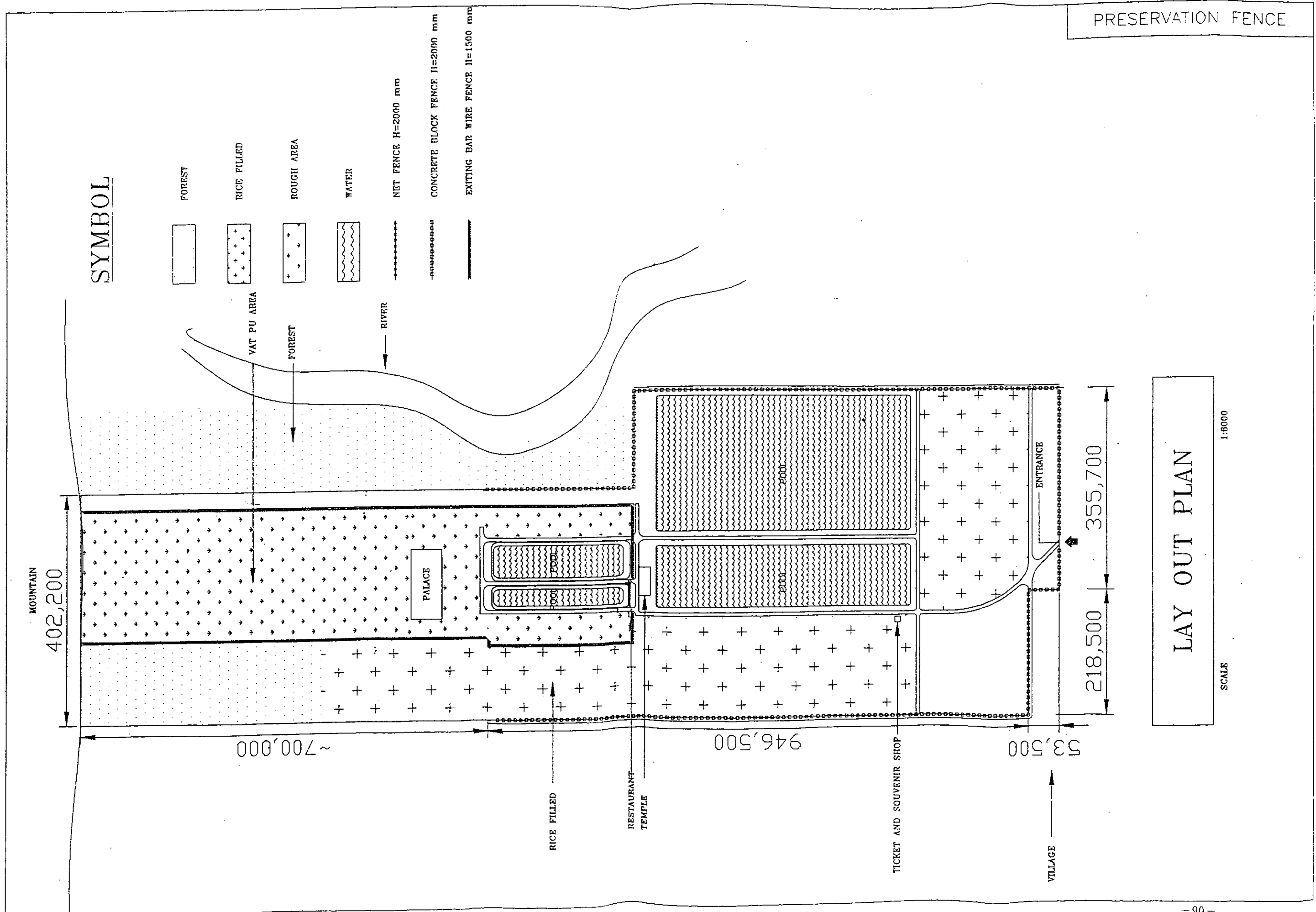
法人名	グループ	備考
State enterprise machinery agriculture of Champasak District	建設	
Champasak construction company	建設	Tel/Fax:031-212-492
Vongphat construction company	建設	Tel:020-530-323
Phonkham construction company	建設	
Khamphou construction company	建設	Tel:020-530-673
State enterprise Irrigation construction company of Champasak Province	建設	Tel:020-530-204
Simala construction company	建設	Tel/Fax:031-214-340



EXITING LAY OUT PLAN

SCALE

1: 400



- ① 壩壁沿、水路
- ② 山麓水路
- ③ 山腹水路

